

尾張名所圖會 後編

二





尾張名所圖會後編卷之二

目錄 中島郡下

尾張大國靈神社 末社

例祭

難負捕の圖

夜難負の圖 神主

社僧威徳院

大日堂

宗形神社 大御靈神社

國衙廳館跡

學校跡

大江匡衡教導の圖 修理若御子社

觀音寺

稻葉驛

伊奈波名神社 金名神社

禪源寺

齋所權介成清

久多神社 天背男命窟居跡

久田氏宅址

苗部天神社

專正寺 長杜天神社

木全又左衛門宅址

長隆寺

光堂橋 中島郷

中島左衛門尉宣長

串作の里

觀音寺 萩原驛

萩原川

吉藤里

玉江御厨 鞆江神社

名産生姜

聖徳寺舊跡

信長公富田道場小至り多事

起驛

起川

頓長寺	堤治神社	吉田權現社	木曾川普請陣屋跡
性海寺	蒙古降伏修法の図		長谷部氏宅址
千代氏御園	千代名神社	土宮大明神社	桂林寺
大中臣安長塚	八面森	愛智御曹司八面鬼と双六と打圖	
益田森	加納院	馬橋	東源寺
增田右衛門局長盛		無量光院	縣宮
堀田尾張守之高	大屋中三安資	浄土寺古跡	瀧川氏城跡
小富士塚	大富士塚	裳咋神社	敢臣船主
坂手神社	臨門天神社	願應寺	賣夫神社
屯倉舊跡	生粟神社	牛頭天王社	一時上鴈の圖
長福寺	國分寺廢跡	鈴置地神社	圓光寺
圓興寺	名産大根切干	船橋舊跡	船橋觀音堂
國鎮寺	白山權現社	山口保	野見神社廢跡

淺井神社廢跡	河俣下天神社	善應寺	八劍社
布智神社	正琳寺	王塚	德永法印城墟
八劍宮社	伊福部御厨	湍江神社	中野渡
名産櫻鮫	永張寺	神明社	祖父江古城址
祖父江竿鷹	長岡莊	轟川	皇大明神社
柳御園	神明社	地泉院	

尾張大國靈神社ちくわの ふ府宮村 延喜神名式小尾張大國靈神社本國帳の從

一位尾張大國靈大名神とあはれり今の國府宮總社大明神と稱し

奉る抑尚社は本州の國靈なりて尊神大己貴命 往昔五月六日此地にり

りりまて中島直の祖天背男命と契約いひし凶暴と鎮おさめり所の

御神なり 光仁天皇の宝龜二年二月十三日官符をとりて宮造と定

りりし 文徳天皇の仁壽三年六月官社の列しはりり代の進冠しんかんも

ありし 後鳥羽帝の文治二年三月從一位 土御門帝

の建仁元年二月正一位の神階かみなりし 龜山帝の弘長元

年宮号の 宣下のりりりりし 神徳かみに 弥や埜のり 靈たま驗げん珠しゆ

小著せうしよし妙興寺に所藏しよる嘉祿元年八月の廳宣ていせんにも一國之總社

府中勸請之敬神とあるりりりり國中の四民尊崇しんじゆんすし神廟かみなり

文徳實錄云 仁壽三年六月丁卯以尾張國大國の靈神大御の靈神憶感神
等の列官社

○本社の南向の祭神 大國靈命大己貴命 別の稱なりり 伊弉册尊 天照大神 素盞の鳥尊
稻田姬命 活玉依姬命 手摩乳神 足摩乳神等と合はり

拜殿樓門と

國府宮

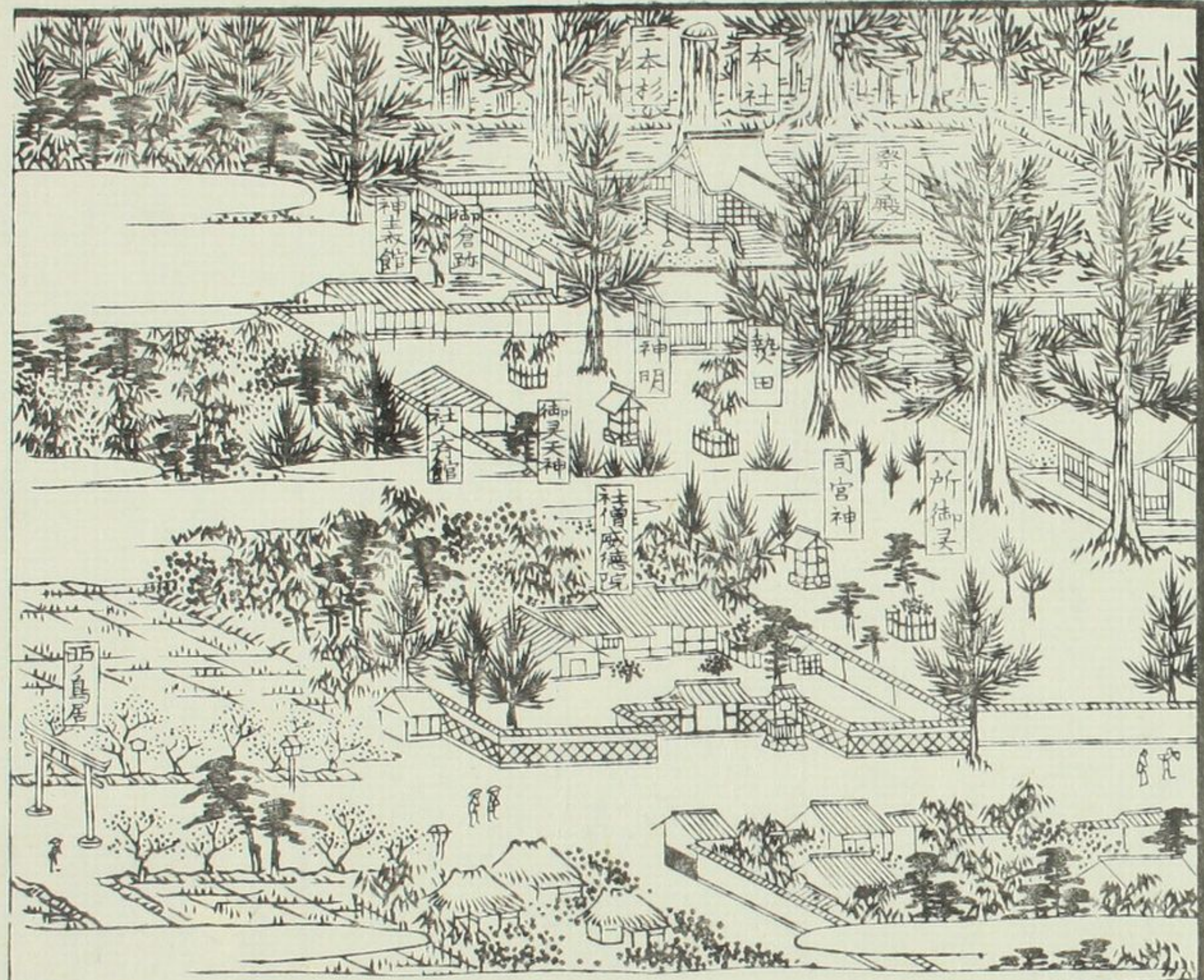
遺廟依松柏
居然太古風
蒸民仍粒食
誰道非神功
阿部伯孝



香

清社の一うらに
三梅の杉樹なり
とれんあふれ
清沐持とぞい
まのこゝも
初瀬即中島
連舟なるあ
くはるにけこ
梅津因縁乃
清津と思ひ
信景





天保七年丙申不稔世の中
 祈年祭も修り不届き
 おとす候とて
 世々一や三傳の
 沙鷗

其二



尾張のや
 大正の
 ささりひて
 ちんちん
 民ハ
 中
 茂岳

と下り清殿歳を小建つゝおまり 於圖上と照らん

のうらにありて社家村の崇敬は是 大穴持命の像石の末に能登國明昨郡に大穴持像石

神社とあり因例より信小弘法の像石と稱して大穴の故事とつゞき 陽うらうら 君山を以て

三本杉 宇社の山にあり大穴貴命とある杉の小杉と神木 政所 宇社の東南の方にあり

大敷より正月十三日の神事二月 古陵 政所の地あり 大穴主命の神像もまた天背男命

六日のあまのうまひ殿として執行し 天神社 少彦名命 司宮神社 孫田彦命 熱田社 日本

末社 神明社 國幣主尊 宇賀神社 俗に孫の 居森社 津島 居森 白山社 義理姫命

とあり今社より 八所御霊社 今社あり神と 辨財天社等あり ○神寶 大鈴 大鳴と名

の紙の記より公式令に清玉の孫の流の真教とのに續日本紀以下の國史 司宮神假面

一 二月起難の条に方相氏疫鬼と連入國ありは假面方相氏小類として記しき古器あり

其外古物多く織田豊臣あまの 東照宮及び 性高院君より

賜ひ 制札流状お甚多く 又嘉禄暦仁等の廳宣とくめ建武 弘安嘉元暦應等に公家式家より 尚社(寄進の流状を多く妙島

寺に持傳へり其神領も多くありて今も返好あり ○例祭 神前

奉幣 正月元日寅刻神玉社中神前に於て正月朝の神儀と稱す 御田神事 十日

日辰の神子方神の方の細友神ありて地りも神形も此もの 土餅封神事 四十一日

めく竹の作りと神の作りをなす 難負神事 十三日 俗に難負祭と云ふ年中行更故實考に當り國府

寺の行りありて行路の人と云ふとれ一木の冠と實とて進歩し退難の流あり今も勢州白子

の祝もちありて是と行ふ又和州長谷より二月修正の法と修成者も恐田の神宮ありて四月五日

修正と行ひ鬼と連入り俗説の難負と人々のやにひひ修成者も恐田の神宮ありて四月五日

怪母の誤りあり國府宮の慶元用あり唐画の吉祥天女ありて社家の事ハ編田路の像ありて

んより清本の國分寺より吉祥天女像の法と修成者も恐田の神宮ありて四月五日

の条三代實録の元慶元年八月の記あり 修正の法と修成者も恐田の神宮ありて四月五日

んより 難負神事 十三日 俗に難負祭と云ふ年中行更故實考に當り國府

寺の行りありて行路の人と云ふとれ一木の冠と實とて進歩し退難の流あり今も勢州白子

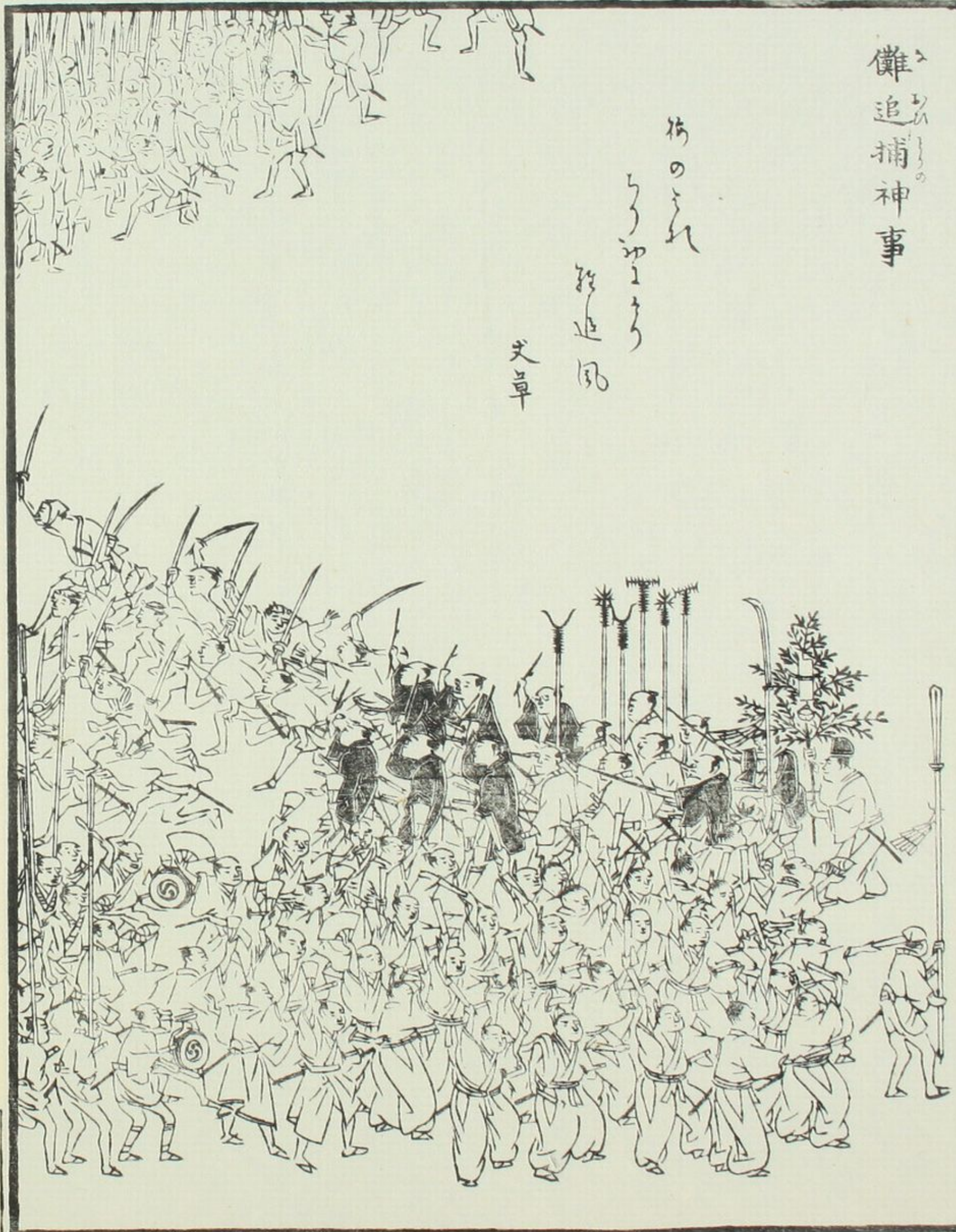
の祝もちありて是と行ふ又和州長谷より二月修正の法と修成者も恐田の神宮ありて四月五日

修正と行ひ鬼と連入り俗説の難負と人々のやにひひ修成者も恐田の神宮ありて四月五日

怪母の誤りあり國府宮の慶元用あり唐画の吉祥天女ありて社家の事ハ編田路の像ありて

んより清本の國分寺より吉祥天女像の法と修成者も恐田の神宮ありて四月五日

の条三代實録の元慶元年八月の記あり 修正の法と修成者も恐田の神宮ありて四月五日



備追捕神事

街のふれ

りつりつ

追風

文草

香

夜
儺
退
の
神
事



香

形天神と志保より新撰姓氏録に宗形君大國主命六世孫吾田片
隅命之後也とありやく彼氏人が祖神と祀りしは社号と云

大御靈神社 同く別官にて御王社と申次延喜神名式小中島郡大御

靈神社本國帳小從一位大御靈名神と云より奈保ハ大國御靈

神ハ八重事代主命と云合せおは

舊事紀曰大威神妻伊奴姬生兒大國御靈神
文德實錄曰仁壽三年丁卯以尾張國大御靈神列於官社

國府官

周田新川

祥雲

五色擁

雕甍

入廟

齋心

已覺

清尸

祝有

人傳

祭

典士風從古進 備名歲深宮外長杉合畫 靜階前衆

鳥鳴序遺蹤

何處是

遥思

學士賦

詩情

國家の御事を祈る奉りておはせしむる事ありて國を治むる事と云ふ

信景

尾張の國にありておはせしむる事ありて國を治むる事と云ふ

多小こころこけの棟と云ふて去りて此の形代の非なり又の殺進の生勢とて

夏と云ふ事

流れまじりてや 必府の官

霽川

國衙廳館跡 松下村あり今 往古郡縣治政の御世ハ諸國もに國府の館

舎わて守助掾目史生等の友人京都よりわけて官舎小居て國中

の政務と行ひし日本書紀の 天武天皇元年の条に尾張國司守

小子部連鉏鈞二万の軍兵と卒て 天皇の御軍小加りたり

ありしころ古書の守れ古書小んころりあり其後大室三年七月

甲午多治比真人水守為尾張守と續日本紀小志ありしころ

大中臣朝臣清磨滋野朝臣貞主等と云り四五年での任限とて交

替せし數百人の姓名ハ諸書小んころり中も大江匡衡朝臣任國の

時溫淳の政と行ひしころり其のころ頼朝公平氏と討てせと

治りしころり文治の末諸小武家の守護地改と置り國司の威

権衰しころり空官のやありて政事を取らんとしころり官廳小

居候もせしころり彼令も廢しころり古跡とありしころり

學校跡 同村に 國廳の跡と云地珠小廣く學校の地も其ころりあふけれど今

其地定らるる 佐所小或向往年國志のころりありしころり中島郡松下村國衙を改て尾張

衙を改てし時ハ昔日國司の廳を奉り明らかし國の地古往學校ありしころり 陽成紀小
紀伊國司言八月二十六日亥時風雨晦暝電激發震於國內廳中及學校并倉屋破と云り



國くに衛が學校がく
大江おほえ匡きやう衡けい講こう
書しよの圖ず



匡衡朝臣、和漢の大才にして、文朝
野群載本朝文粹詩、新撰朗詠
集和方、後拾遺集續古今集新
續古今集中古哥仙新百人一首
等、ふん、り、自撰、す、西の
書、江吏部集大江匡衡
家集、ハ、ラ、シ

て凡れ昔國府に孝披と云くハ麻の地... 仁明紀に其堀足て其後ハ一人の博士數ふに... 又每州博士と云くハ史ハハ見... 仁明紀に其堀足て其後ハ一人の博士數ふに... 又每州博士と云くハ史ハハ見... 仁明紀に其堀足て其後ハ一人の博士數ふに... 又每州博士と云くハ史ハハ見...

大江匡衡朝臣の尾張守... 時字館院と管...

江吏部集小見... 栗原信光ハ柳菴隨筆ハ折古國毎ハ孝披あり... 文也に之ハ國學の事ハ今ハハ見...

夫詩者群德之祖萬福之宗也... 夫詩者群德之祖萬福之宗也... 夫詩者群德之祖萬福之宗也... 夫詩者群德之祖萬福之宗也...

西曹東曹ハ昔家江家と云くハ是同祖... 江侍郎ハ匡衡自身の事と云くハ... 長保寛弘ハ匡衡尾張守初任再任の年...

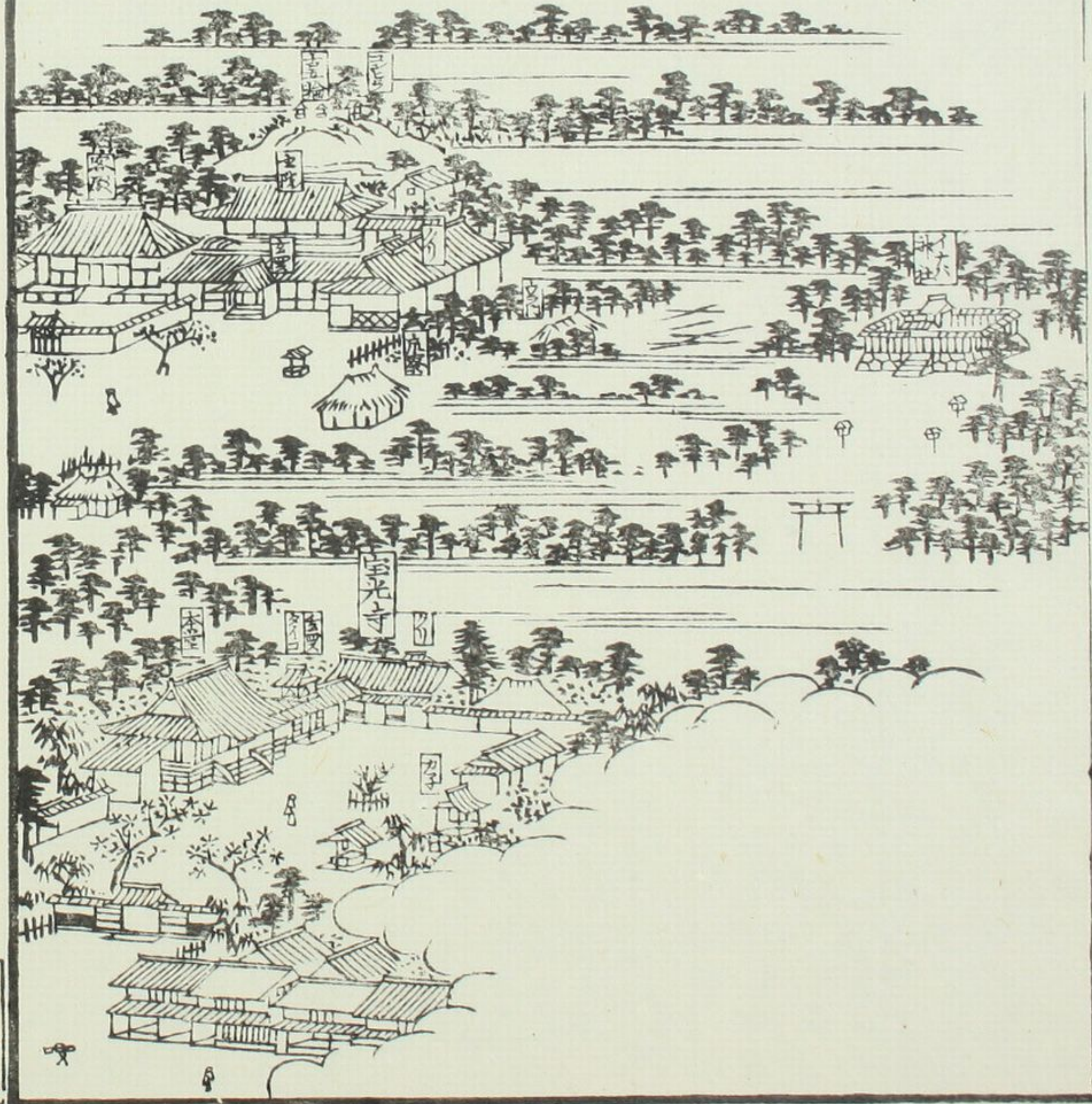
修理若御子社

陀山觀音寺... 陀の像と安を以て依の内ハ久其の年... 吉中の先之の清也...

予今年正月拜尾州刺史... 官好文學相重士之所致也... 聊以孟酌答謝厚意昔山陰曲水之會... 吏只陪蘭省東方朔再入翰林白樂天不耻烹鮮為少...

禪源寺
 伊奈波神社
 金神社

隆虎之享保
 三年戊戌土月
 琉使東行泊玉の
 時尾西金花山此
 傷詩と作す
 越来王子の
 不謂我山簇錦
 海風光此日与

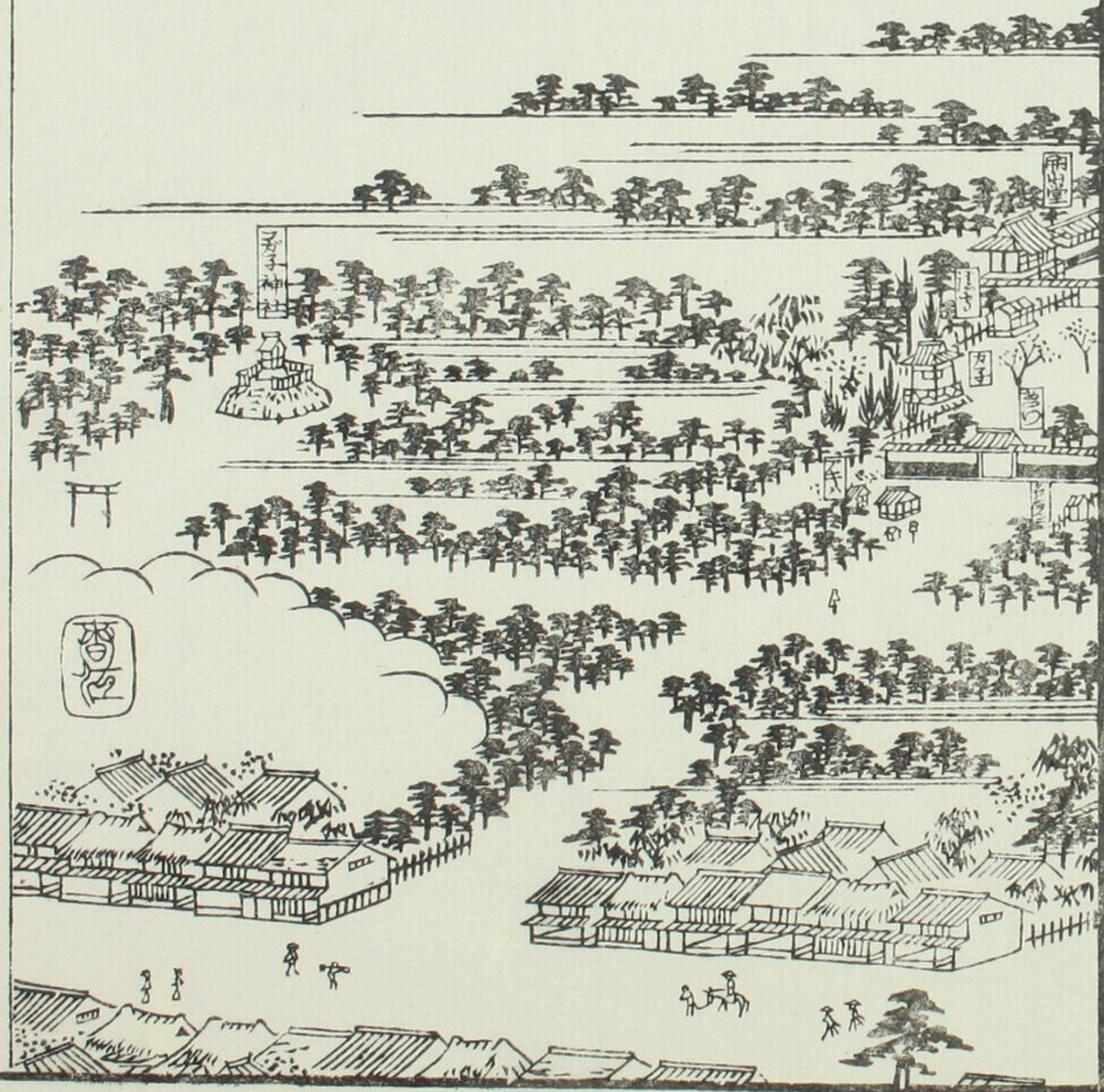


君看移来霜菊
 色竟把擎出仙
 花露半乾

禪源寺清光座元

金花山上駐吟
 鞍霜菊水仙座
 外看風雅高僧
 能愛客筆頭珠
 玉色無乾

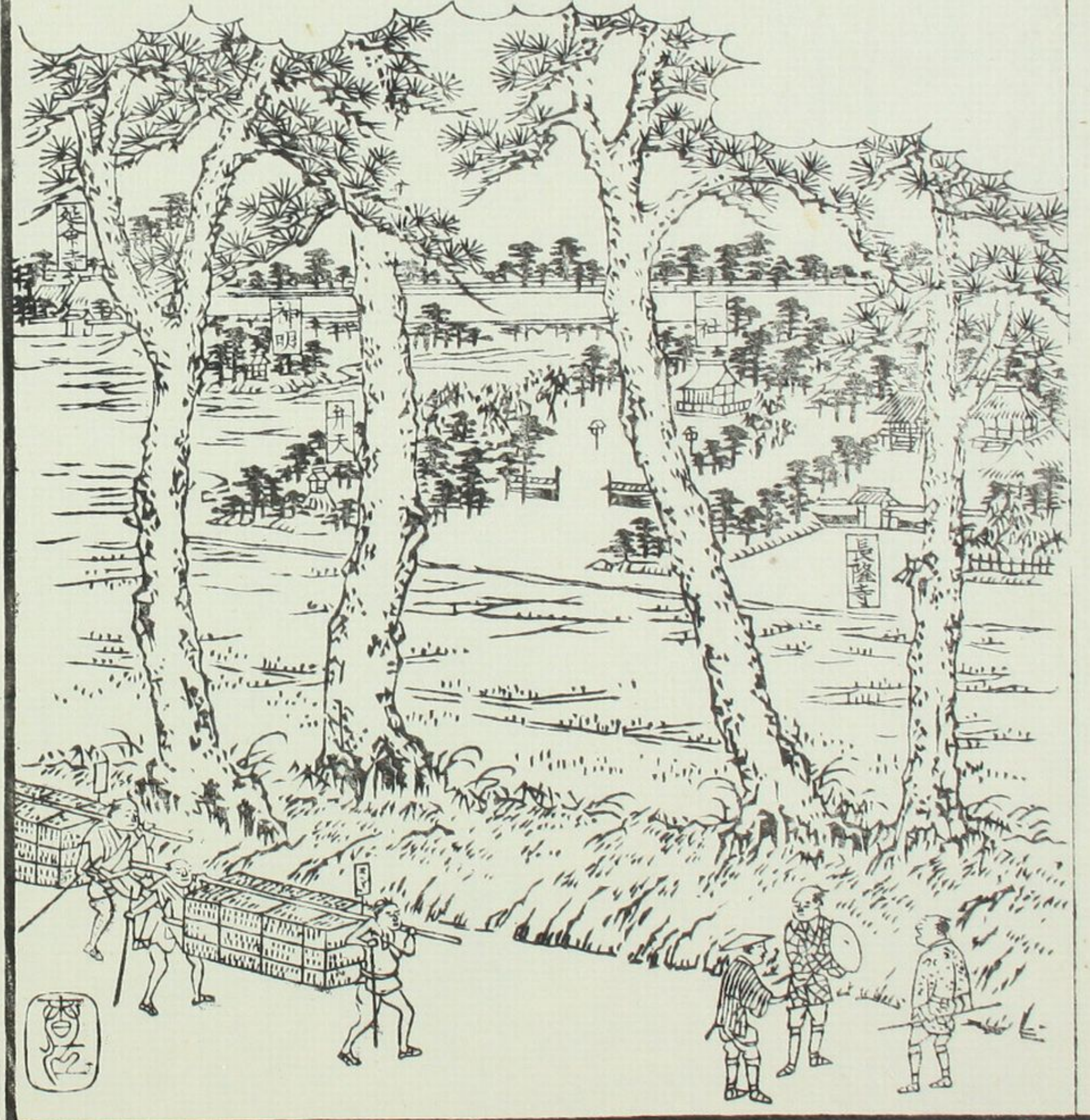
中山尚和聲拜稿



中嶋村
長隆寺
延命寺

あ郡の三峰と
尾張風土記残缺
中島郡中島
郷と尾張の古
ま里あり

甲斐子
古寺の
佛はかきり
包あせて
里のうみの子
かきりも
せり文
甲斐子



木全又左衛門宅址

木全村及び箱島村のあり、木全又左衛門の忠澄其祖と善鑪といひて世の地と探りむ、郷士ニ三百人、駈合て犯し、木全謀とて、不意をうけて、一校と多く討取り、世の長安にあつり、武語碑玉といふ書に記し、是名古左衛門の長臣、薩川家の祖なり。

無量山長隆寺

中島村のありて、古左衛門一官村地處も、未だ古雅なりて、古佛古堂、あふま、なる、阿弥陀の大像、なれて古色あり、夾侍と親善、日先菩薩、月光菩薩、うへ、び、あまの、を、ん、う、以、二十五菩薩の像と、安色、うり、が、多く、教、さ、て、日、先、月、光、の、坊、あ、あ、寺、室、兼、師、画、像、巨、勢、金、剛、の、筆、五、大、尊、不、動、画、像、智、澄、大、師、の、筆、不、動、画、像、傳、教、大、師、の、筆、其、外、唐、像、の、か、さ、り、あ、る、村、多、し。

光堂橋

月村のありむ、佛閣のあり、さ、わ、つ、て、光、り、堂、と、い、ひ、が、つ、つ、の、以、り、廢、絶、し、て、は、橋、堂、も、り、り、又、村、由、の、護、摩、塚、と、い、ふ、地、名、の、跡、り、る、も、む、り、と、い、ひ、て、は、橋、堂、跡、も、な、れ、古、寺、の、多、き、地、なり、沙、石、集、の、云、尾、張、國、中、島、と、い、ふ、所、に、道、世、の、上、人、寺、と、建、ま、り、て、傍、に、止、住、り、め、法、の、衣、鉢、を、ん、ど、常、に、持、つ、り、其、所、の、古、木、の、大、う、ら、と、道、管、の、し、り、に、さ、り、け、る、に、寺、ら、も、在、家、人、に、樹、神、つ、て、す、け、る、ハ、我、等、ハ、は、本、と、い、ふ、と、い、ふ、た、の、く、す、む、に、樹、ま、く、傍、の、ま、く、あ、り、ま、く、止、ま、り、せ、て、た、と、い、ふ、ま、く、傍、の、ま、く、付、ま、り、た、ら、も、せ、り、余、所、の、者、と、い、ひ、せ、む、べ、き、や、あ、る、と、い、ふ、我、等、ハ、傍、の、繁、花、衣、の、風、も、あ、り、陀、羅、尼、の、声、も、あ、り、て、苦、患、も、た、ま、る、奉、れ、傍、と、い、ふ、を、悩、ま、奉、らん、只、り、り、て、た、と、い、ひ、た、れ、傍、も、ま、く、奉、り、て、切、跡、り、て、け、り。

中島左衛門尉宣長

同村の人なり、中島も、同山、藏宗、和尙、の、東鑑曰、延應元年九月廿一日、尾張國住人、中島左衛門尉宣長者、兼久、逆乱之時、為官

軍之由有沙汰被收公所領然而當時侯御所中頗依愁申之於尾藤田畠者可付渡之旨今日被仰付西郡中務丞云

串作の里

起ぬの村より和名抄に中島郡石作久利とありとありの里とありとあり

河室山觀音寺

串作村ありて浄土宗元保の曼陀羅寺本河室ハ舊き地名と源三位頼政が高倉宮の啓しつる諸國源氏揃のころより尾張源氏河室判官代とあり

萩原驛

美濃街道の宿駅東の方稻葉宿より西の方起宿への馬継

あり町のころ長く農高軒とつゝ移り賑りさ里たり

玉露叢

享和十一年甲戌 將軍家清上洛七月六日尾張國萩原宿とをばいよと

身延紀行

おふわいて所とすけハ萩原秋のころの流のりとも

牡麻流せもの萩原長くはるるあのかみり 元政法師

萩原川 一名古川といひ萩原宿の西と流と街道小板橋と架り川

むしの木名川鷄沼川の舊流よりほ世川の瀬かよりて起川と

本流となれどむしの流の流かよひありたり長流の

大川をれ所々に決て派敷道跡なり

續日本紀曰神護景雲三年九月壬申尾張國言此國與美濃國堺有鴨沼川今年大水其流改道每日侵損葉栗中島海部三郡百姓田宅又國府并國分ニ寺俱居下流若經年歲必致漂損望請遣解工使使開堀復其舊道許之

三代實錄曰貞觀七年十二月廿七日甲戌尾張國言昔廣野河流向美濃國當于斯時百姓無害而頃年河口擁塞愁落此國每遭雨水動被巨害望請堀開河口令趣舊流太政官處分依請

其後川昔清少美濃各勢郡の人といひ中島郡の人と爭論出來つひ小刃傷及び殺十人死傷也 三代美濃小刃傷り其文

吉藤里

吉茂村と 尾張風土記殘缺小吉藤山出脩竹等杉栢松等鹿兎

多頂上有池号吉藤池昔在神跡三段之荒玉築社於此池中每秋供職以入當時絶亦社之在可滅焉と云々今鹿兎あど

の位さ山もくくありて松林などの廣くむしの山れ面彩おもなり

又村の南此方に山中と修了地の跡も風土記の説も合ふ

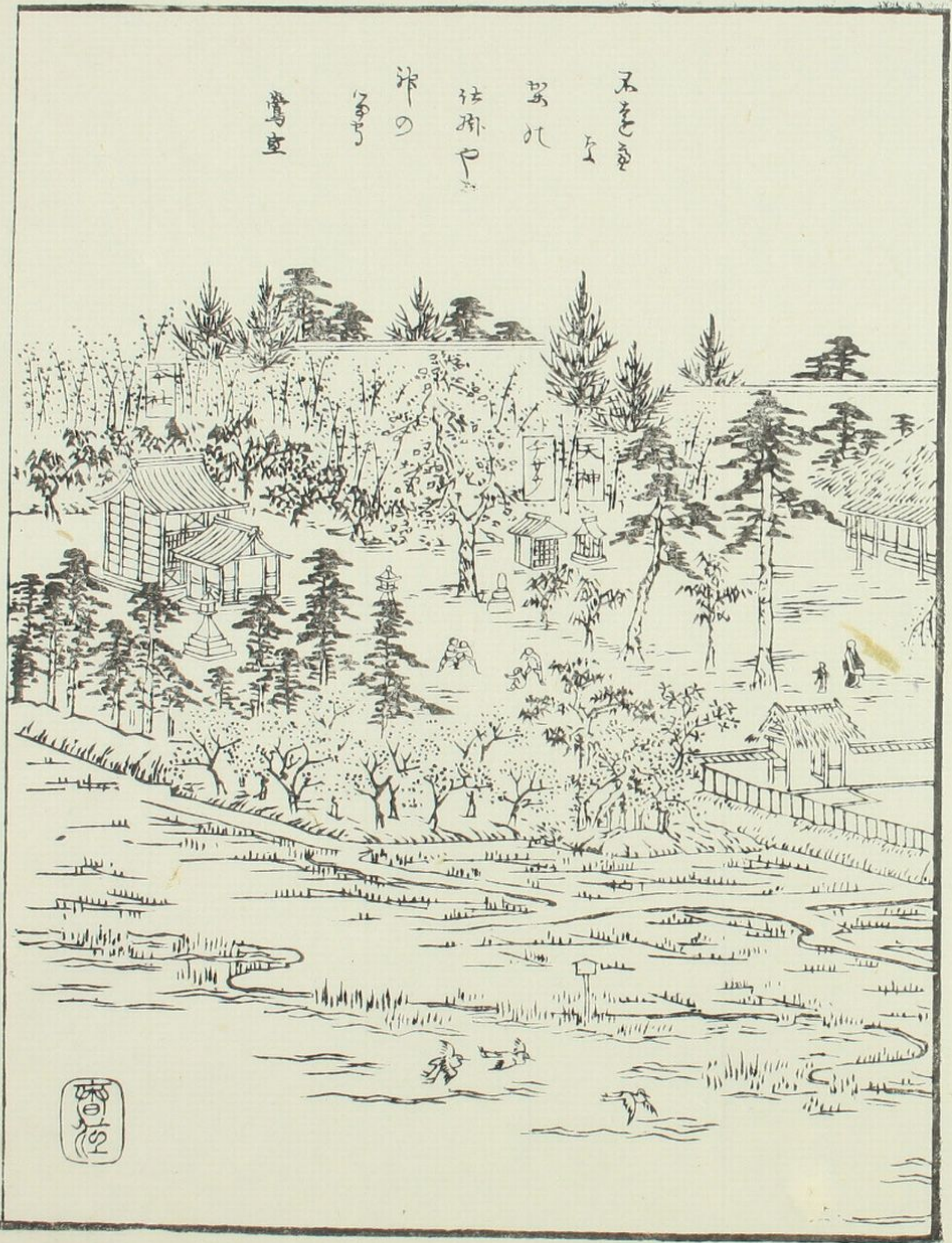
玉江御厨舊地

吉茂村にあり神鳳抄小尾張國王江御厨とあり今神江とありとも江とも移りなり文和三年四月廿三日熱田御神領日録小中島郡玉

韮江神社



不毛の
松林
はたや
の
鳥



神江

江蘇田島十四町四段
三十歩云々云々云々

江神社 目村 延喜神名式小中島郡鞆江神社本國帳小從一位鞆

江名神と云ふ所なり今神江明神と稱す 名勝志の往昔神功皇后三韓退治の後諸國の放生池を置

山岳の放生池と號せり 社僧 青蓮山神江寺と云ひて曹洞宗三關村の眼寺

是の所なり 三代實録云貞觀七年十月廿八日丙子授尾張國正六位上鞆江神從五位下

名産生姜 阿古井村より此の根大く味化養の厚ふ所なり

村よりモヤシとて不交の故 多く出せり 共ふるあり

聖徳寺舊地 富田村のあり名古居七町所の舊徳寺の地なり

聖徳寺といはる 聖徳寺舊地の後傍系に其地とあり

信長記小曰信長卿の行跡 平中務が諫書なり

富原山城守が家の子も山城守の前して信長卿大嗚呼の人と

ゆき連くナありるに式時道云 祝儀の儀 信長公嫁娶の儀 見奉り

とくろろ見むとあり小四月下旬富田の寺内聖徳寺まで出らん間

淨慶寺

日の上らふ
あはれけし
あはれ月

英齋



上総介殿も浄出りり本意たゞ一対面ありて越え
 々とは信長卿左右より約わぬて浄出り山城守悦び彼町未
 の民屋小忍び居て上総介殿の赤尾一と小振物と足糸其日の出
 立髪髪の結結やうまげ物髪類の類の明衣の体今人俗常より遙小越
 て異體異體より浄供の人々健健うら者千五百人浄先よりらり三間
 半柄の朱鎧朱鎧五百本弓鎧炮五百挺為持寄宿の寺一御着わつ
 て爰爰於て有有二式式のおまおま小小かかささせせひひたたれれんん
髪とぬはふかきうり
結とまきせぬを
たけちく皆人有有ままじじ草草ののままややううににごごちちりりなるなるかかてて浄浄とと赤赤舎舎
 事終りたれば又頓頓て可有御出御出とて浄浄ままわわるる道道三三も萩原の渡り
 まぐ見送りけるが長長ささ給給とたたまま立立て帰帰ららととくくとと足足てて真真ささりり教教
 少くゆりける猪子兵助道三の前小近寄近寄アアと上総介殿何何とと争争
 とと嗚呼嗚呼の人人みみととりりと山城守にゆゆけけと道三道三の谷谷ふふされされが無念
 うらまれば我等が子供彼ととの者が門外小馬とほほららぶぶまま

三ノ十七上

案のうらうらとつひつひかかららしして其ゆゆ人人の目目ささややおおをを流流
 一と物物いいあありりりり

起驛おきりのえき

美濃路の宿駅東の方萩系萩系宿より、系の方長流長流小善保小善保名一
 の馬継馬継より南の方富田村より町屋町屋ささくくららつつぶぶささ旅旅店店茶茶店店ホ
 ううははららくくはは往往來來のの旅旅人人ささああるるささららくく旅旅りりのの驛驛之之

尾張風土記殘
尾越山出茨苔山椒持授等有名桂樹取之工家用萱植之類云今郡たぐひり且尾越山
とつてさきやのまもつてハ丈端と出村より織中朝貢ゆも又清玉もあつて
庭訓往來に尾張ハ丈とある名尾より富村を色にハ丈氏と稱する家ハむの織工の商
孫より村名と織起りつむむの尾抄の里の名うら

謂謂此此兼兼起起里里詩詩
 驛馬驛馬駿駿々々陟陟長長野野吾吾人人會會集集詳詳茅茅舍舍記記得得徒徒來來小小里里

秋秋ままぬぬいいととととああくく仲仲急急ののああけけ小小田田小小ああててかかささもも 田中道磨

宝曆十四年甲申三月朝鮮人來聘の序起起止止宿宿の日日富富府府政政谷谷陰陰洲洲二百韻の詩と作りて
 彼地の孝士南秋月南秋月の踏踏りりをを秋秋月月日日二百韻の詩詩古古よりよりこれこれ富富書書博博字字にに非非ずず准准ううくく
 これと作ん急急率率とていま能能窺窺手手りりのの原原況況やや和和すすりりととやや短短篇篇ととりりてて此此のの破破りり
 かく彼二百韻全篇と聞聞て前後前後のの序序ひひてて二十二十字字と抄抄かかりり前前小小善善保保人人會會ととむむ著著と
 下下次次のの且且吟吟且且吟吟即即季季とと接接て陰陰洲洲のの序序陰陰洲洲又又秋秋月月がが散散とと席席上上小小和和是是秋秋月月奇奇多多
 序序文文いいひひてて勢勢嘆嘆やや一一河河梁梁雅雅契契にに洋洋ううりりてて云云にに詩詩とと略略次次

起川

村の西より本多川と水涸本町の奈良井迄の香居味又御歳蔵の麓より出で伊勢比
老多浦まで今を五十里の長流なりて川中庚之水勢をいひて其流のわたりおぼし
く是れ絶えり云々公私の旅人此來 將軍御上洛の節に朝鮮人來傍の舟に船楫
十枚百艘の舟と楫に並て大綱及び大濠にてつらぎ其上に板を添へて陸地をわびむや
汝其大造の舟を乗むにの伏せの船楫にさしあはせ其今世の世の名をいひて越中
國神通川の船楫にさしあはせ其今世の世の名をいひて越中 國神通川の船楫
此川也朝鮮人來朝又船有此舟二百五十艘為舟楫舟与舟間三尺餘用大鏡條繫合
布板於其上云々

暮渡于越水鴻雁悲数声正觸離鄉意既傷遊子情
行々且顧望兩晴尾州城 細井平洲

浪衣

其後とて一孤村の烟に征客の帳をうつ改是越の口より約賣の後
おす馬屋人おつて中をに括ふありと入友をいひて改是越の口より約賣の後
月に清舟ありとてお舟の舟ありとて佳看と器なり俗ありとて
千里に遊むに舟ありとてお舟の舟ありとて佳看と器なり俗ありとて
よと西をふり舟ありとてお舟の舟ありとて佳看と器なり俗ありとて

伏水龍公美撰併書
自彼祖漢
舟楫以濟
置諸厥漚
俾人弗迷
莫斯通津
庚寅夏日

中 山 之 道 三 野 之 陸 有 水 名 喚 自 彼 祖 漢
渺 乎 如 練 不 辨 涖 涯 絡 繹 行 客 舟 楫 以 濟
宅 山 之 石 燭 燈 一 基 載 削 載 磨 置 諸 厥 漚
哥 便 徠 往 爛 燈 歌 兮 莫 斯 通 津 庚 寅 日

萬松山頓聽寺

義重の自筆の写り名書の印ありゆゑ之を名書とて古雅なり又同
ふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり
ふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり
ふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり
ふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり
ふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり

權現社

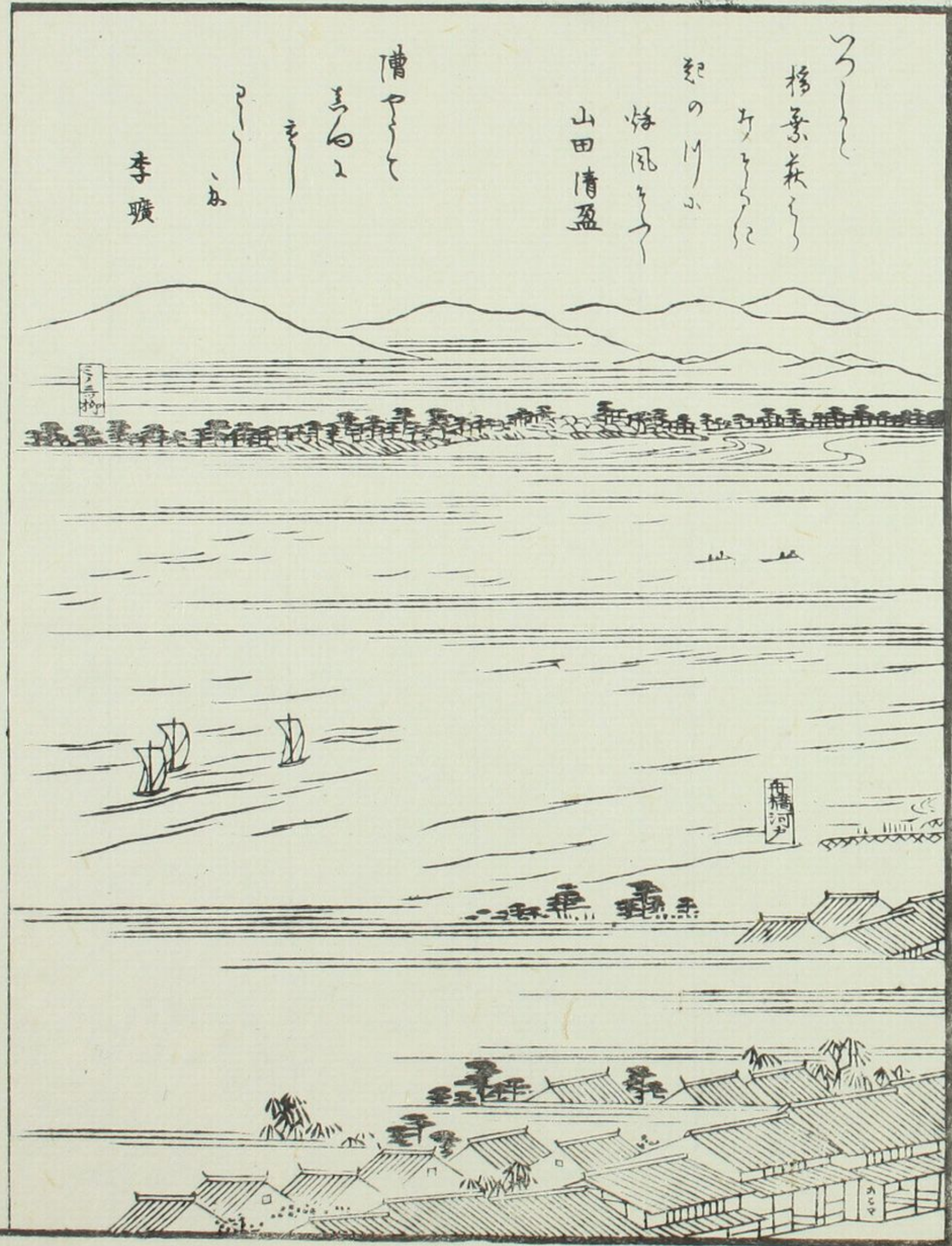
又て或切あり後ありて南村の藝居すむ子孫連傳とて代々 國君にお福す
字帯刀と先する又権現社に寛永元子年の御清とて今やありふりふり
堤 治 神 社 延喜神名式の中島郡堤治神社本國帳小従三

位堤治天神

位堤治天神とあり 集説小續日本紀の景雲三年尾張國海部中島二
郡大水ののせざる其頃堤防鎮護のより小まつり神のののののの
位の堤の宗今ハ神明社とあり 延喜社則其舊社なり 延喜三年中
田代内祀といふ人其旧地ハ神明宮と勧清のののののののののの
神明社とののののののののののののののののののののののののの
るや南村中島分も神明社二町鎮座しよ

木曾川普請陣屋跡

西五城村のより長十九年二月伊奈備前守木曾川通普請の
奉行せり此起村と小信村との間に陣屋とて營し其事終りて



李曠

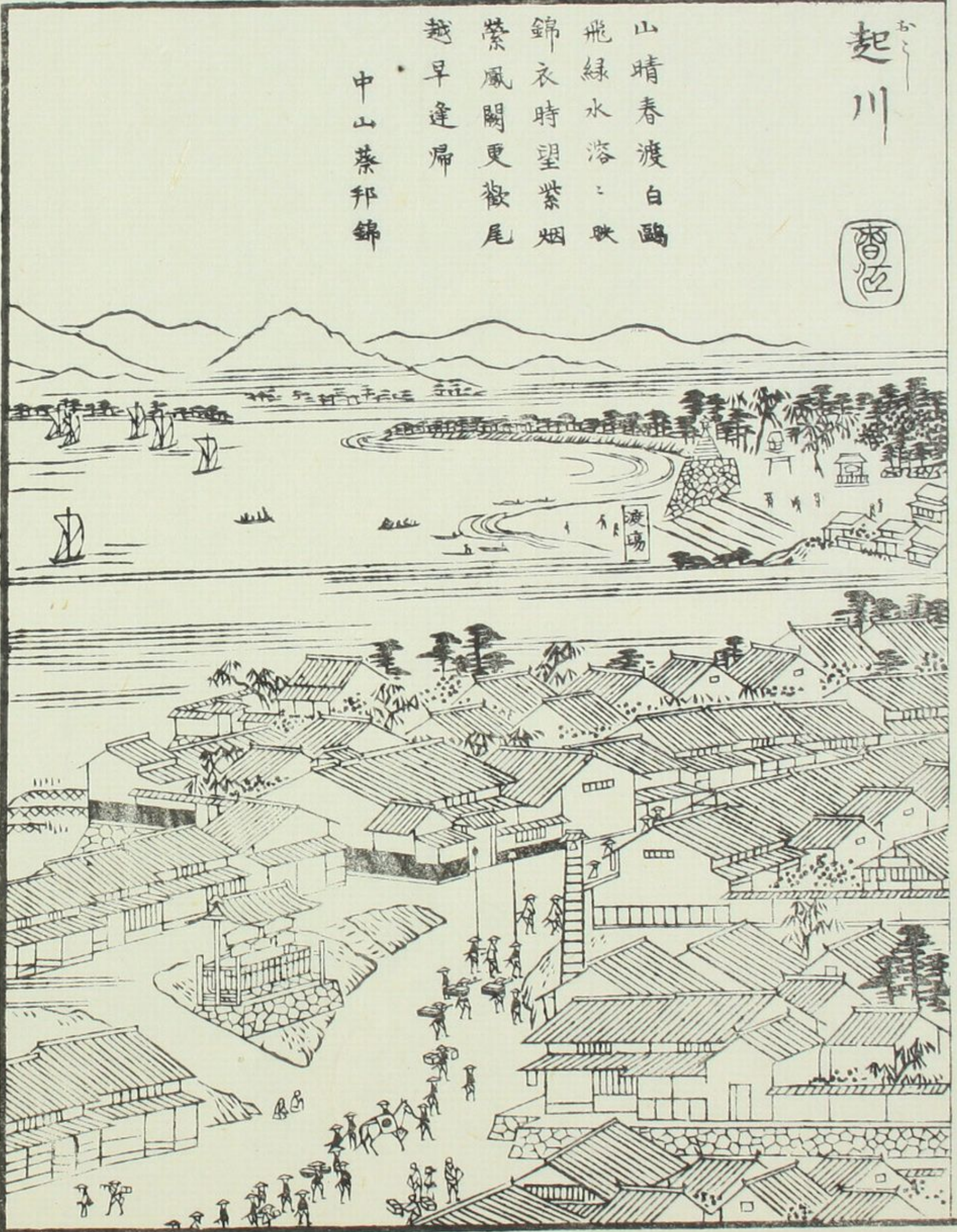
僧
美
ま
あ

橘景
起の川
好風
山田清

起川



山晴春渡白鷗
飛绿水浴
錦衣時望紫烟
縈風闕更歡尾
越早逢扁
中山茶邦錦



堤治神社
吉田権現社
頓聴寺



のら被陣屋となりて一向宗東派信行寺と
造主せり尚ちい名を公聖徳寺のホチウ

大塚山灌頂院性海寺

大塚村にあり真言宗本末系部仁和寺の禪定院
兼帯の洗家より七種の色衣を着る細代専朱傘

寺許免許ありて尚不
一宗の寺勢あり

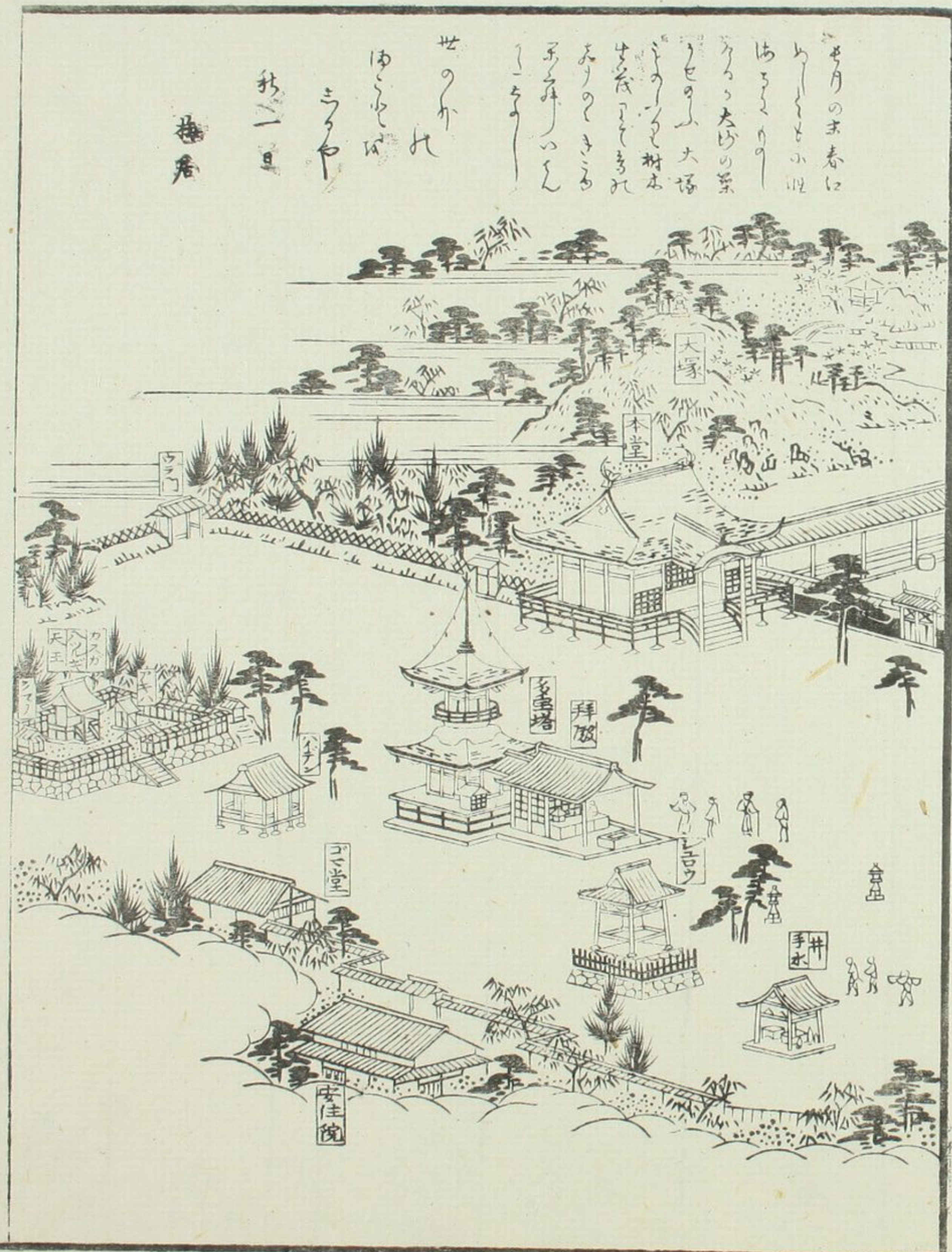
尚ち弘仁年中弘法大師熱田大神宮へ余

詣の折々此地と過らとける小威容嚴然たる老翁一人出来
て大師小逢ひて告げり尊師ありて勝地と索り真言祕容の
道場と管構して衆生と海度せん志しわらふと我ら幼と
てたわらん此地に勝地所なりとや精舎と管を給ひ
給ふといふ事りて行方去りて去りて大師老翁のよ
ほせ尚ちを創建し自ら愛深明王の像を彫りて金堂に安
置し又鑰像の大聖歡喜天と鑄造し大さうの塚と築きて
其像を埋め國家鎮護の表とせし其塚今猶境内小なり
村名と大塚といふもは塚より起まり其後四百餘年の星
霜と経て堂宇衰廢小及びいと建長年中尚那の領主長

性海寺

過性海精舍
成瀬正太

祇樹蒼々、梵
閣深常無車
輻映門侵偶
攀蓮社縱狂
態獨使遠公
同醉吟池潔
綠蘋風疊影
徑回俯竹畫
成陰從君能
聲交歡去定
裡供園不流



春月の末春に
わびくく小池
ゆるりりりり
うるう大少の葉
しせいり大坊
きうりりりりりり
そんりりりりりり
ふりりりりりり
きりりりりりり
きりりりりりり
せいりりりりりり
ゆりりりりりり
しりりりりりり
秋一
梅居

谷部民部大輔源政後祝髮と興復の志願と起一京邦東岩

倉の良敏上人と力と合世金堂灌頂堂護尸堂鐘樓山門等と

管建次依て良敏と中奥の閑山と次良敏字ハ寂思熱田大官司の家

際廣うり本州の浄心濃州の照寂が随つて天台と多比叡勝寺の大圓が從て真言ハセウ性質和順りて字藏

教と受け東大寺の住持圓照の室と設て戒と受け律と受ふ者及ひ蜂須賀重華寺と開創して宗義と傳ふ本州の密教と唱ふ

良敏と有りて姑く次委し本朝高僧傳の出り良敏の法嗣浄胤上

人の時後宇多帝の勅を蒙り弘安三年二月廿八日僧衆五

十餘口とて蒙古より襲来し異賊降伏の秘法と修せしむ

大て代々の住持持多うり多く他の住持も當ちに来地するり幸中の中ハ八事

山の諱忍律師或防其師につきて来り住持作詩と守りて忽數十首と

作りていまだ年十五の弱侍うり小も名白類ひうり住持襲来し且戒りて

汝年若くも才有り詩作のゆき小業と止りて學問と勵むるに長谷智積の

官僧に備るに至らむとひけは清思覺るて堂中に安置の弘法大師の像

と指ざりて我彼がゆく及と修して衆生と候ふ思ひと思へて後と

して如藏の名と得りゆちに住字の板敷万億事ありも諱

忍が活板とすれりゆちりて作らるり本堂兼久三年淨

の善光寺の亦と摸刻し河弥陀記勢至一光三輪の像と龕塔の内に納り

て安んず又尊勝陀羅尼ともいり尊勝塔と号次塔背に二十五菩薩と画り

巨勢金剛の華之塔の服之の四天王の像ハ運慶の作別壇の

地藏もハ安阿弥作又持佛堂の河弥陀本像ハ善光大師の作客殿道覺法親王真華

の性海寺三字の

扁額と護摩堂宝藏庫裡書院迴廊唐門等其外の諸宇

巖然とあり愛染塔境内あり二重の高塔あり弘法大師作の愛染明王の大

像と安置すれり本堂に安置しりて後ハ塔中に

あり明王忿怒の面容儀形威靈ありてあまうり感應勝るれり世人

建名年中の建名有り其佛清く港ハ天正年中兵賊奪ひ取り伊勢の安儀津の

國府の阿弥陀堂小あり今ハ彼堂にあり今ハ港ハ享保三年三月誘り

り誘り聖天塚本堂の西より塚山あり弘法大師營築して飲在天の傍像と埋り

ら一橋と伝へたの築山に楓樹数株ありて秋の原ハ

紅葉色と増して風光を冠りたる林あり鎮守ハ釼社大師誓田と

也と勅請せりり拜殿寺領長谷部源政が寄附せりり寺宝綸旨一通

後醍醐天皇元弘二年九月九日院宣二通共小年号不詳尊氏公祈

元年七月十八日二年九月九日院宣二通二月四日十月廿五日尊氏公祈

禱狀建武三年同制札建武三年直義公制札建武三年北条時頼證

狀弘長二年異賊降伏御祈禱證狀蒙古の異賊降伏の文書なり弘安三年二月

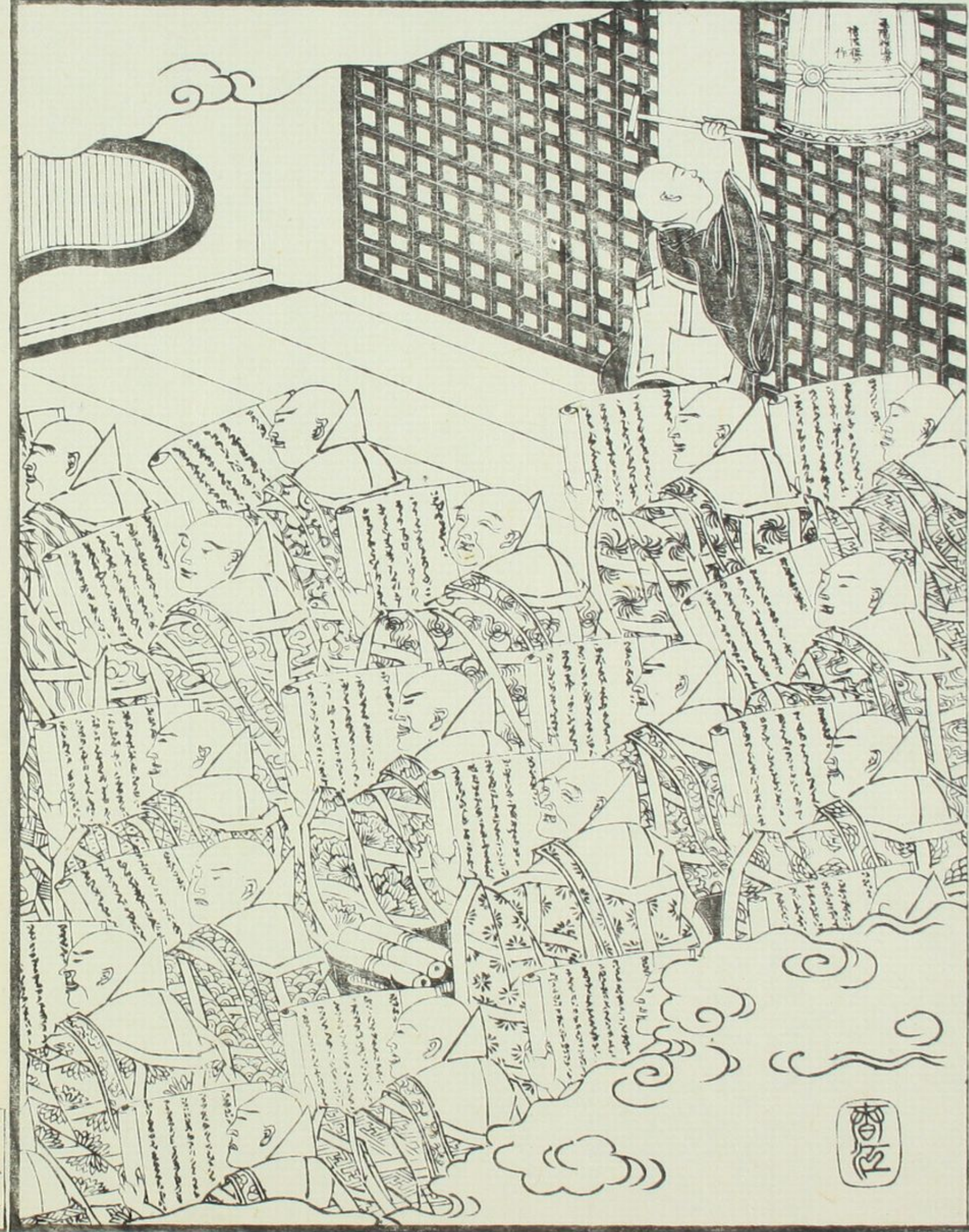
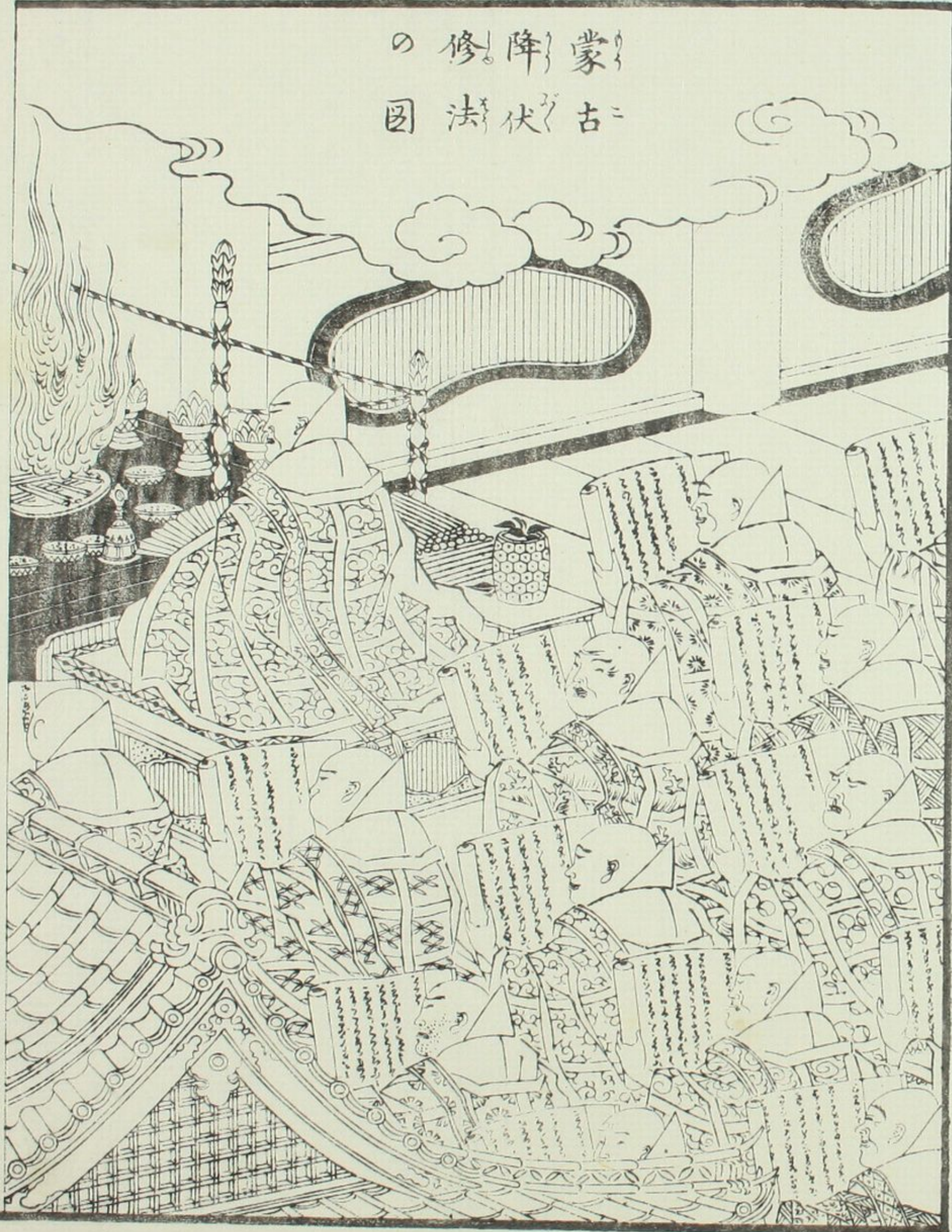
三月十日廿八日熱田大官司寄進狀弘安七年尼尊如寄進狀二通

中島郡性海寺文書て是と出せり應長二年三月廿日六月三日沙弥唱叶留記嘉祿二年尼圓日寄進狀嘉祿三年

田敏定證狀文明十八年長谷部系圖享祿三年織田大和守達勝證狀

六月四日八月十八日織田大和守達勝證狀

の修降蒙
圖法伏古



阿彌陀佛

天文七年 十月九日 豊臣吉房 證狀 文禄四年 六月 其外建武三年二月の宮内大輔終

状及びびとて二十餘通り又弘法大師自画の像とてり不動

明王愛染明王五字塔の三幅も共小大師の筆あり其傍芦二鳥

の二幅對 雪舟 竜虎二幅對 相阿 山水人物等の屏風 雲谷 同 華 花

筆 文明十四 太鼓 朧の裏に永正十四年丁丑極月十三日張之願王 異賊降伏の半

鐘 銘文ハうて四句の女あり信濃縁因友作と及白鳥たふらうて 金剛力士の面

孝春作と又仁王のころの破きしころより昔仁王門もつうてカ士の 性海双圓

の塔 石の五輪ありて弘法大師の作り 石の面一に種字と彫其下の石に梵字左右小

号起まりとぞ 性海の寺 周田新川 浮圖標一

風吹花樹一度祇園滿地晴沙有履痕迫見浮圖標一

柱曾聞長者附三尊冢中靈閣無人識壁上留題尚

自存榆櫨盛經知幾卷山僧誦得課晨昏 大宮司李雄 植松茂岳

今もねらふつゝ法のゆらゝつゝのせれ教たりとて 塚のうのねもふとせれおとせしをそ神さしむる

長谷部氏宅址

田村小川にありて殿屋をとりし中島の郡民部太捕源政ハ清和天

少く代々大塚に依次源政晩年薙髮して唱叫とて其子と長谷部政春入道明阿

臣長九郎なる尉連兼ハ其末孫の性海も係起及び 長氏系圖に及びり唱叫留記ハ源政の家記あり

千代氏御園

今千代村とよむり大神宮の御園とて千代氏恒貞とよみ人つゞきと

所藏の延文六年三月八日の寄進狀に尾張國千代氏庄内永吉田地之事云々あり

千代名神社

同村あり今ハ明神社と稱改本國帳ハ中島郡從一位

土宮大明神社

北島村にあり生土神とて次杉社に藏野天神とよみ社あり是本國帳

稻藁山桂林寺

セウチ村にあり真言宗古屋七ツ寺未むり七寺とよみ

大中臣安長塚

同村にあり二條院の御宇應保年中大中臣朝臣安長苗玉の守りて

寺と建主ハ其人の墓と爲て香火とにむけ今ハ廢してあり也 安

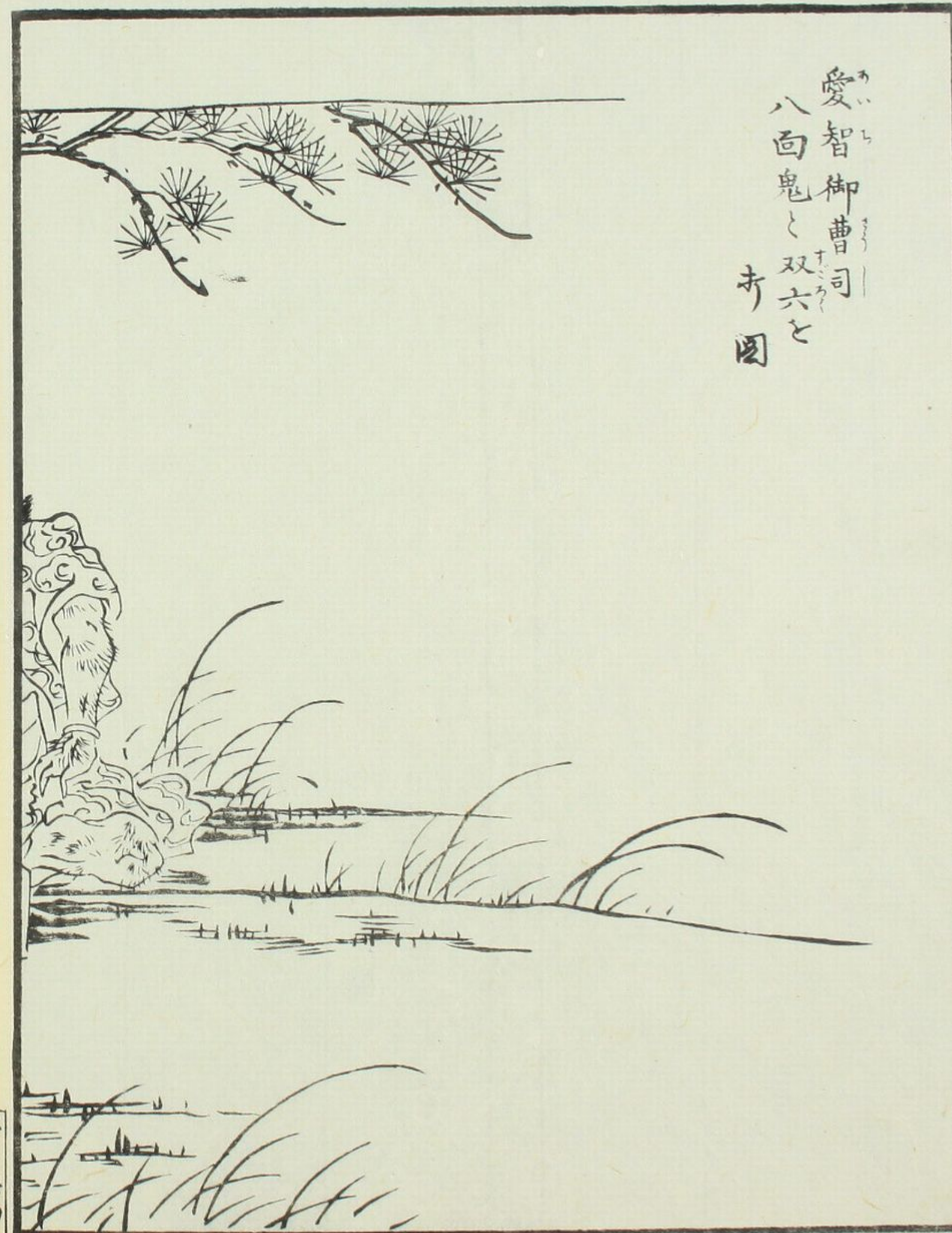
八面森

有松村にあり小社ありて八頭鬼と名あり

松の數々見ゆると八面の杜とよむりけ所ハ八頭の鬼神位一が



畫院後津寺光德孫



愛智御曹司
八面鬼と双六と
寺圖

愛智御曹司とよみ人け鬼と雙六うらて勝り後鬼非の力して
人民と悩まぬまぬれくつて人とわらむ神とらうらふ崇りて
一祠と建祀り傳りたりや凡村里に傳る口牌かたぐい多し愛
智下總守源義成則武をそと右衛門尉範成左近將監義保等
いふ愛智御曹司とほづり子孫もあの有松村小わりとつとんり
按らに 仲哀天皇の沛時多國より日本と美びとまづ塵輪と
よりのとらぬ其く鬼神のゆく身の色赤く頭ハツして黒
雲にのり虚空と飛来して日本にむり人民ととりこらすり眼
の 天皇其くすたり自ら御幸り多ひて十善の御位の
らうらと塵輪と射殺りといふ 八幡愚童訓にんる八頭
鬼の故事によりていひ傳るも里俗の物語あり

益田森 益田村にありむし林にありてまゆの林といひてソハシ赤松まつ
院にありてされど彼まゆのまゆにまゆの林ハ真清田大明神ふれはまゆとす
まゆにたよみ地にまゆ林ありまゆのまゆをむて小社とすふぢうとまゆとすまゆり

益田山加納院 田村小なり真言宗長野村石徳寺末末ありと東源寺しと大地六

益田寺 盛恩大室坊書之といふり小院ありと古雅あり梵刹あり
遊 益田加納院 詠古 松平君山
東源 不可極蕭寺易成愁訪古喬松老懐人野水流
紅娘名未没白馬迹猶留舊事憑誰問稻花四面秋

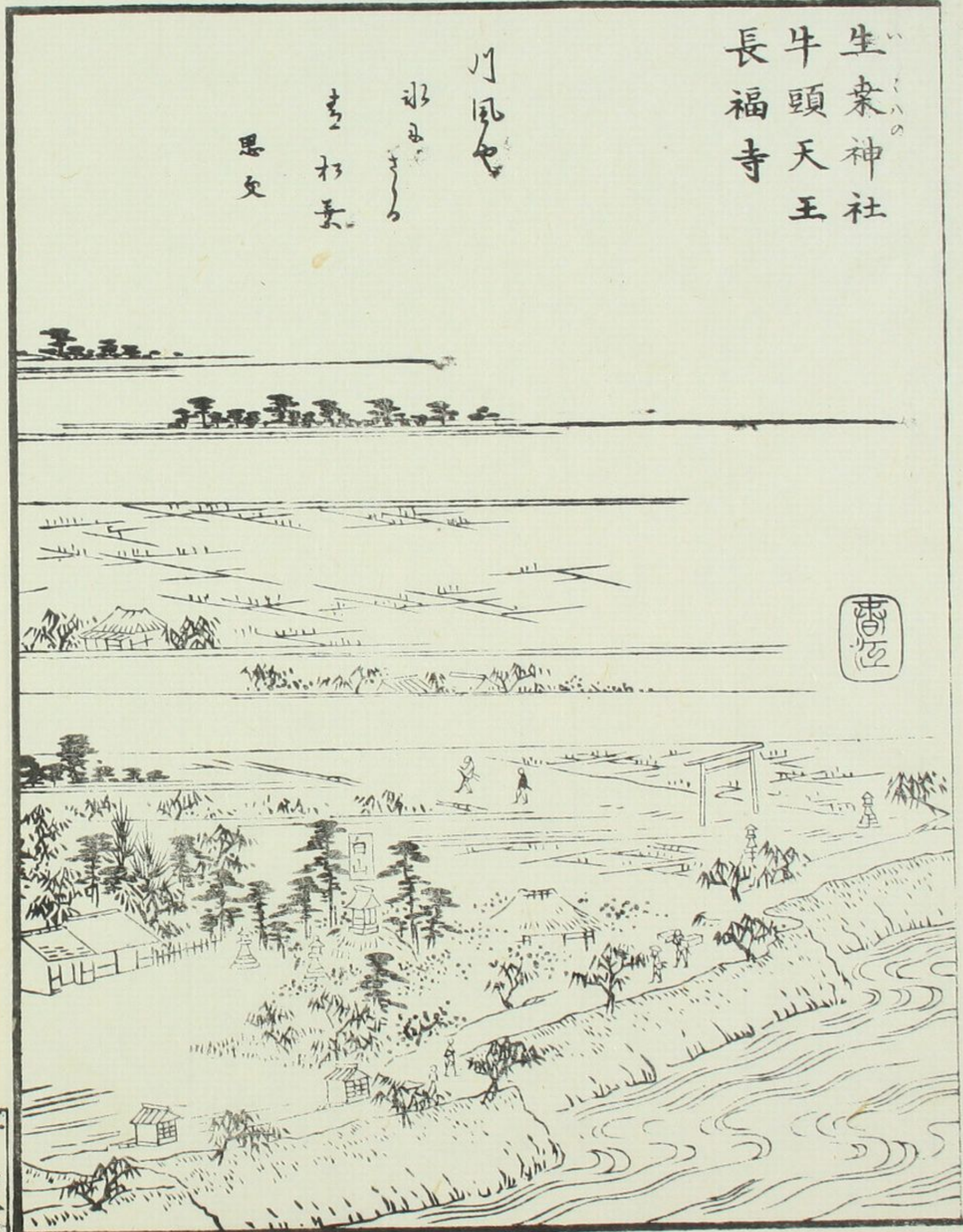
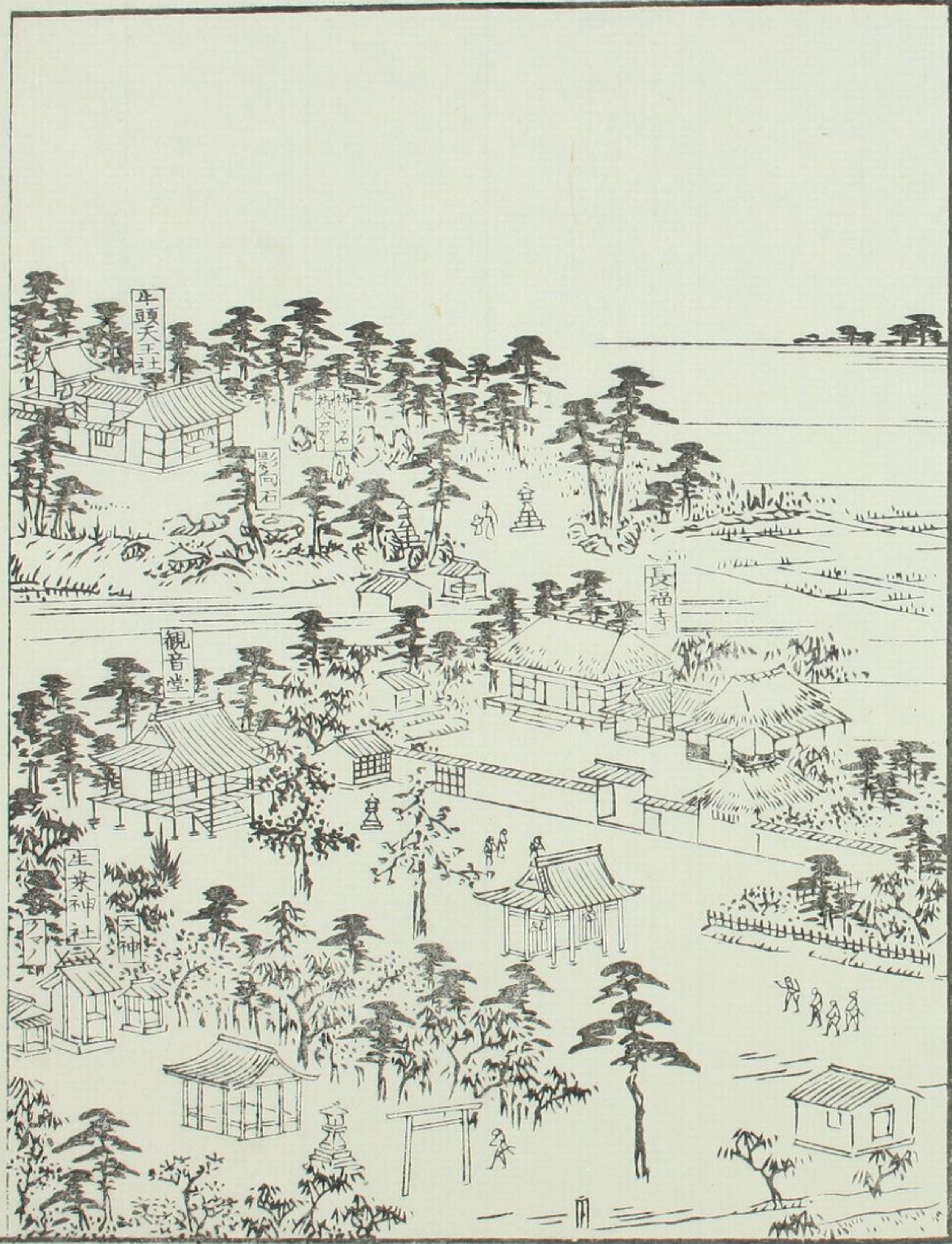
馬橋 田村にありむし伝を云誇りては橋と通ひありといふりや橋上を思
て古跡と伝里人瘧と云やりの豆と煮ては橋下に掛入きて祈り思ふ平愈するに俗
小ありむし橋といふ

東源寺 田村にありむし東源寺といふ大なりと地蔵を讃めて大石とら
の用水と伝あり大洞と云て水をせり八月の夜ねをひき用多と流す
いふは川の御相給授寺漢より駈いそと伝の井掛ひといふり

増田右衛門尉長盛 田村の人秀吉に仕て五奉行の一人なり大洞祀に増田石田ハ州
の郡入郡の所より吾に旁とせしむ増田ハ万葉抄を小
ゆを愛と五年の愛に伝と元和元年武臣罷極く自叙す讀光日記に増田右衛門
墓ハ武州地止全鳳山
平林ちありとるせり

中莊山無量光院満願寺 中莊村小なり真言宗 南ちびりハ大伽藍少
長野村石徳寺末

益田山加納院 田村小なり真言宗長野村石徳寺末末ありと東源寺しと大地六



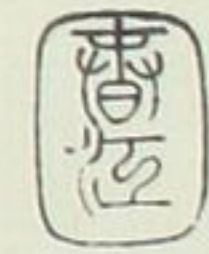
生來神社
牛頭天王
長福寺

川風也

水子

吉村

思文



敢臣宗貞等毆殺宗貞兄敢臣繼雄云云國司斷而言上法官

覆案皆當斬詔滅死一尋處之速流

坂手神社 坂田村ありて今天神社と稱す延喜神名式の坂手神社本國帳に従三位坂手天神と云ふ

鹽門天神社 鹽川村ありて今八幡社と稱す本國帳の従三位鹽門天神と云ふ後世のくみ出素とを異とす

紫烟山願應寺 口村あり東部赤松古木と云ふ一に後小松寺の意永年中

賣夫神社 延喜神名式小賣夫神社本國帳の従三位賣夫天神と云ふ

屯倉舊趾 三宅村あり和名抄の中島郡三宅と云ふ旧地と云ふに國統の

伊香色雄命の清子大咩布命と云ふ

隱岐國知夫郡と云ふ

日本書紀曰武小廣押盾天皇元年獲我大臣稻目宿

禰直遣尾張連運尾張國屯倉之穀云云

生束神社 同村ありて三宅の生束神と稱す延喜神名式小海郡

今伊勢の内宮外宮と云ふ

牛頭天王社 同村ありて今津島小幡天王と云ふ此地小幡

元宮と云ふ

迹 例 廿六日

大悲山長福寺 同村あり真言宗修及村蓮花寺未なる千手觀音

三宅天王祭
一時上臈



四月廿六日社人天鹿氏神傳を
くぐり津島の天王一社を以て日
一月八日社の人付の神を
あつて里重二人と云ふ
獲ひ見と稱し社を以てま
あつて世人を御小行列りし
天王の神を以て神と奉
一社人の御成とし神拜
の式ありしを一時上臈の
と云ふ一社を以て神と奉
の事世ありし日の時
古に比と云ふ一時上臈と
云ふ

國分寺廢跡

矢合村ありし今も礎石跡あり瓦多く地中に埋
聖武天皇佛道と累りあり

源く諸王に國分寺又國分尼寺と建て國土安穩の
の傍尼小命と法華經寂勝王經と溝じり跡あり古跡
あり

詔曰宜令天下諸國各敬造七重塔一區并寫金光明寂
勝王經妙法蓮華經各一部

別擬寫金字金光明寂勝王經每塔各令置一部所真聖
法之盛与天地而水流擁護之恩被幽明而恒滿其造

塔之寺兼為國華

近人則不欲薰臭所及遠人則不欲勞衆歸集國司等
各宜務在嚴飾兼盡潔清近感諸天庶幾臨護布告遐
迩令知朕意又每國僧寺施封五十戸水田一十町尼

迹

扶桑畧記神皇正統記
等の諸書にあり

續日本紀曰天平十三年三月乙巳
續紀印行本十部と云今金
澤本一部とありに云

朕又

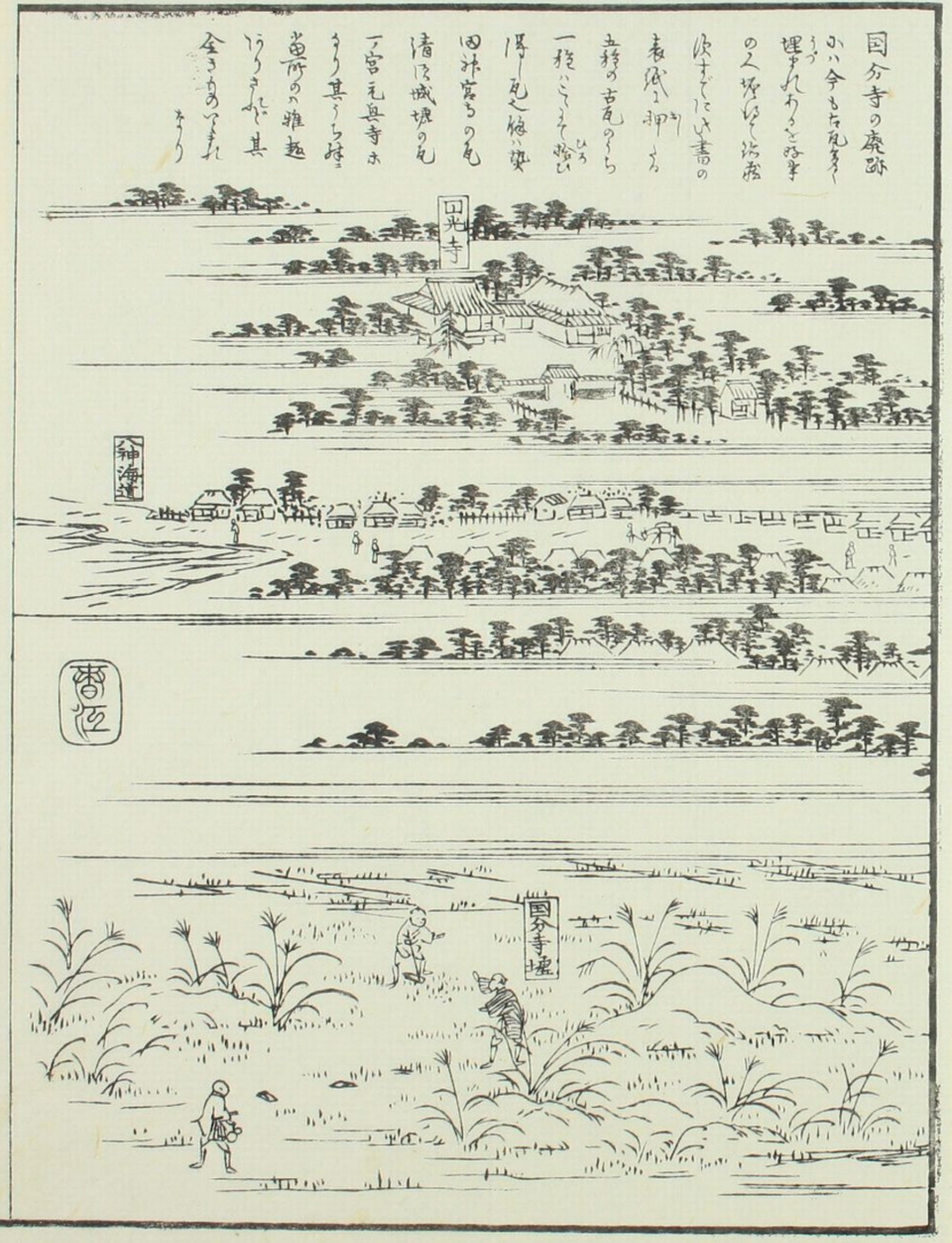
印行本華と花
分金沢本あり

必擇好處實可長久

國分寺跡
 鈴置地神社
 圓興寺
 圓光寺



國分寺の廢跡
 今も古瓦多
 埋れあつて
 の人塚はく
 飲すては書
 表紙に押
 立替の古瓦
 一枚はく
 得るは他
 田井宮の
 清は城の
 一宮元興
 寺の其
 苗所の
 難起
 けり
 全
 まり



寺水田一十町僧寺必令有二十僧其寺名為金光明
四天王護國之寺尼寺必令有一十尼其寺名為法華
滅罪之寺云云 又曰神護景雲元年五月戊辰尾張
國海部郡主政外正八位下刑部岡足獻當國國分寺
采一千斛授外從五位下 又曰天平感宝元年五月
戊寅尾張國山田郡人外從七位下生江臣安久多印行
本安
久多と安人多く似今
金沢本によりて改む
延喜主稅式云尾張國正稅公廨各廿万束國分寺料
二万束文殊會料二千束 元亨釋書云釋光勝不言
姓氏為沙弥時自称空也人又不諱言空也少好佚遊
天下殆遍弱冠於尾州國分寺薙髮為沙弥天慶元年
入王城於市鄭唱弥陀勸化人人呼為市上人云云
鈴置地神社 田村にあり本國帳小中島郡正四位下鈴置地神とあるは田村と
むらゝの鈴置郷といひしる少島も所産の古説又みよるは
田村にあり本國帳小中島郡正四位下鈴置地神とあるは田村と
むらゝの鈴置郷といひしる少島も所産の古説又みよるは

將軍宗尊親王之御息女梅君二十六歳ありまけり時帝より陸奥一忍びて
わらふふとてひかりとささせむひけふの杜をて凶賊ありてはりまき
うらむの協と築き清善提と吊ひまきし其塚と梅塚といひてやうて里の
名はうらむの協と梅塚といひてやうて里の
うらむの協と梅塚といひてやうて里の

万松山圓光寺

田村のあり臨濟宗妙興寺末永和元年少島との田光大照禪師創
建後別禪師の本像と安置 田石碑ありこゝ禪師遊化の地
なり

鈴置山圓興寺

田村のありて因宗田末南ちも永和元年大照禪師の創建ありて
今俗にあふり寺といふなり本寺親考本佛又境内に秋迦堂あり
其内國分寺の本寺といふなり少島の本寺と安置又萩園殿夫等と名づけし老
翁老嫗の像と安置す其萩園殿といふなり今もありて田興寺殿
園泰儀分居士長保三年十月十一日又萩園院殿鈴置大姉長保五年二月
十一日の文字ありし本像と後小織公伴といひしありぬちの冠基ありし
なり

名産大根切干

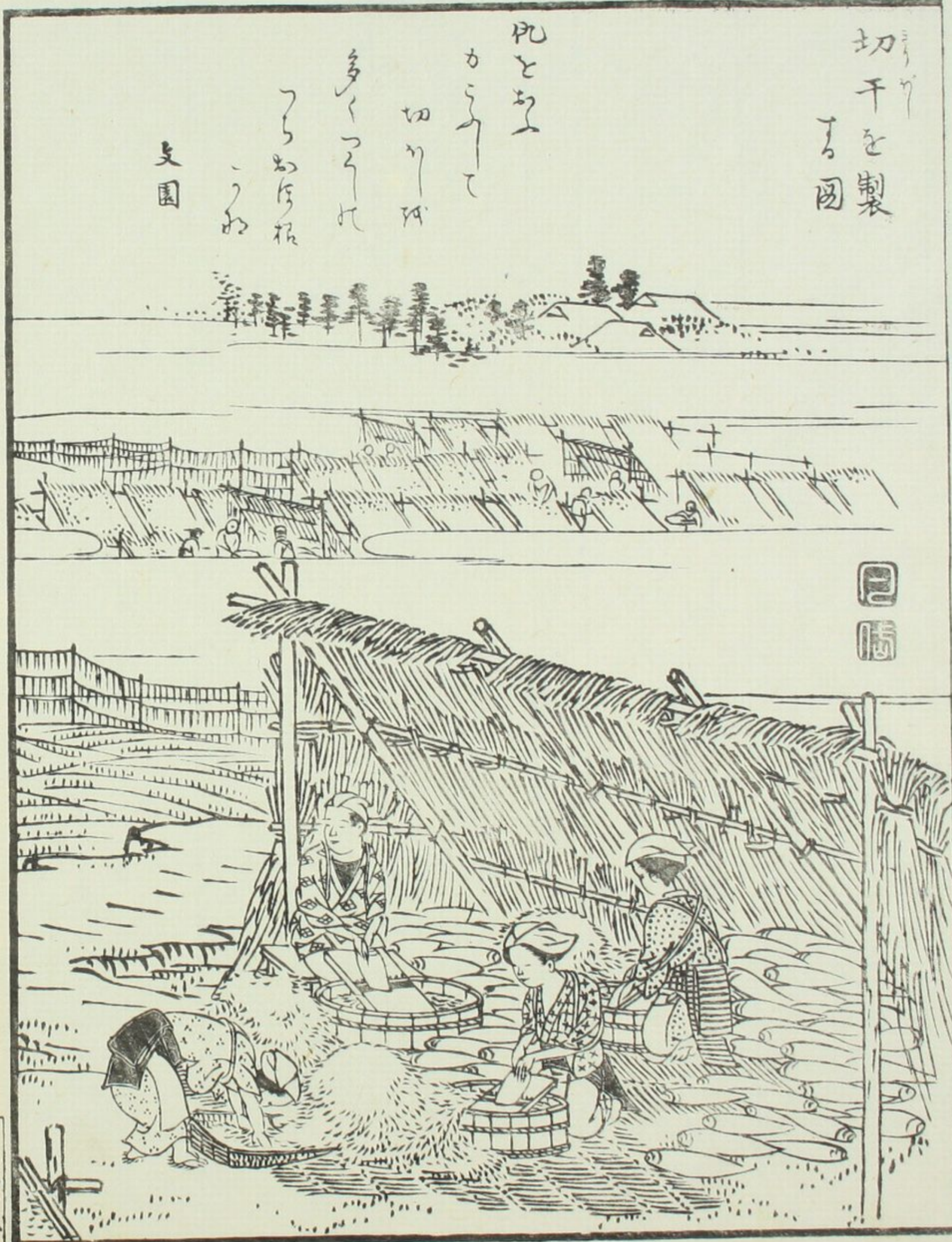
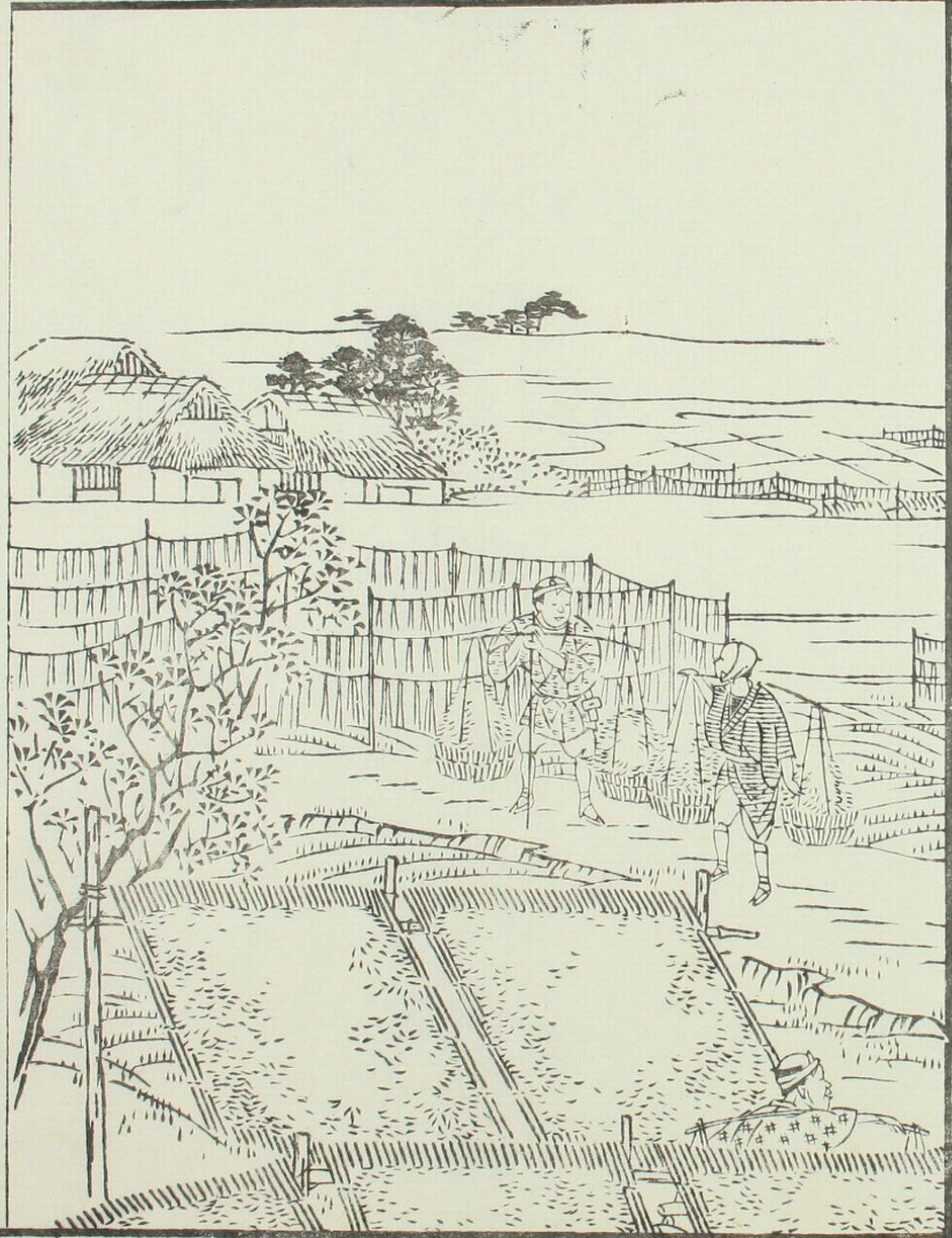
田村及び近村を惣次割干織切干輪切干等を多く作りて名産
なり諸少運送せり 野にふか名産の絶品なり

船橋舊址

船橋村のあり本芳川の支流をてむらゝの船橋とてけり大川より
船の往来ありてむらゝの古川とてり續日本紀三代實録等に見ゆる廣
末の埋れあり

狂舟楫集附録 尾陽秋園より多島の薙苗切りといひて
廣末の埋れあり

安藝廣島 貞佐



切干を製
する図

此と云

カキ

切り干

多くつくれ

つらおろし

くわ

支園

日
時

船橋觀音堂

月十七日十八日に馬の塔と出次張及志畧に大悲山安樂寺とあり

大齡山國鎮寺

法華寺村あり曹洞宗 越前國府中室田寺末

ト、國分尼寺、精治、其跡の再興、曹洞の禪刹、

地、其跡の再興、曹洞の禪刹、

法華之寺と

葉畧記元亨釋書の資治表寺に

蛇も退散、村名小砂、

巨蛇も退散、

白山權現社、

大永四年甲申六月吉日前島左近四郎と

城の傾甚本國より

あり

山口保

山口村と保、今五人組の、

野見神社廢跡

浅井村あり、今其地と見、

浅井神社廢跡

浅井村あり、今其地と見、

河保下天神社

河保村あり、今其地と見、

旭照山善應寺

同村あり、浄土宗、永都智恩院末

建仁年中一色左京大夫満吉、

叡山の乘蓮上人と招清、

師小随つゝ受戒、

難髪の後、

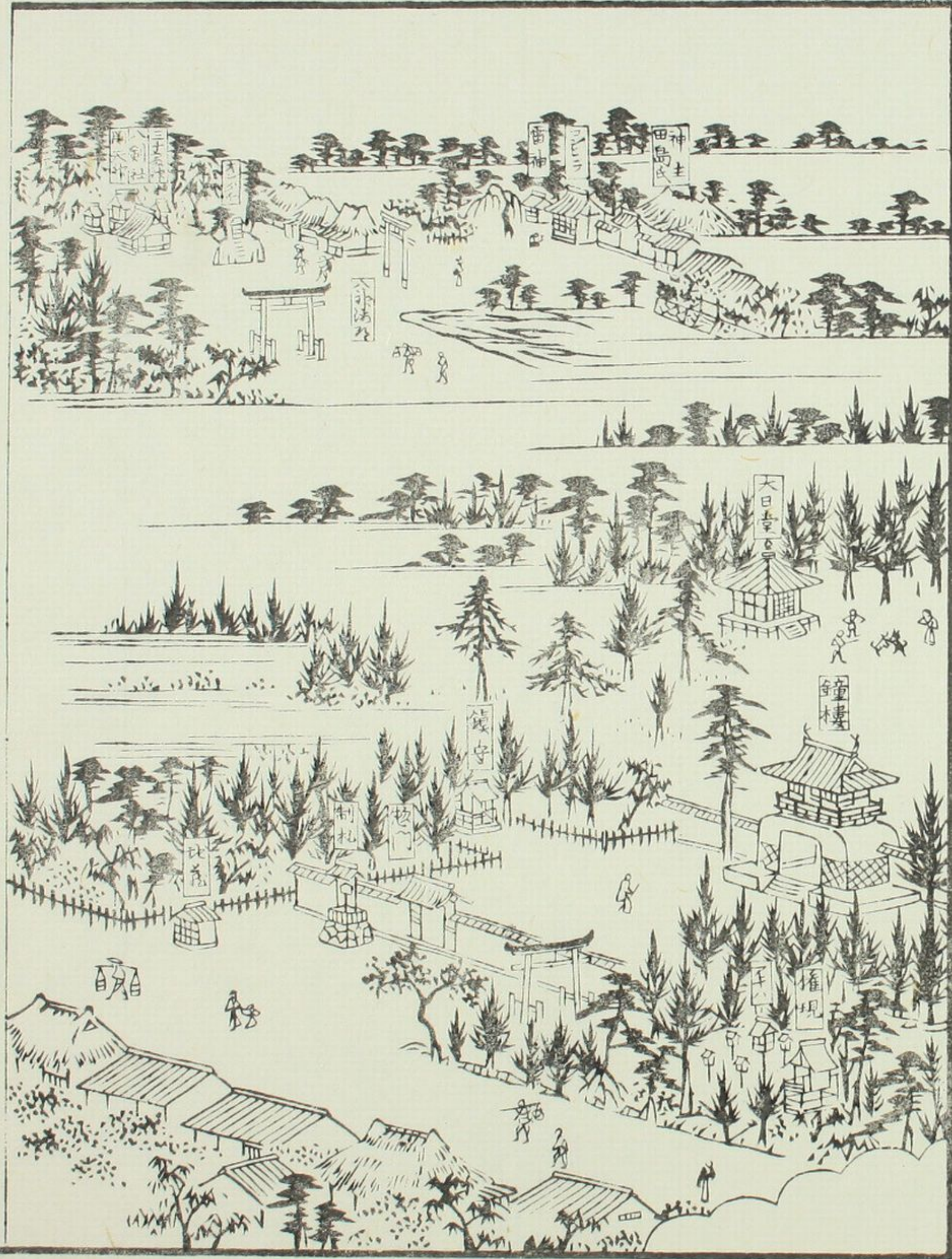
當村小居城、

頃再建して、

鑄佛の大日如来と本尊、

其後、

其後、



善應寺
川曲八劍社

八劍社の境内より金毘羅社
のありははげの取殿とまじり
非樂と奏し投擲とあは
あふのこしく揃ふはあふ西条
朝宮より奉納の儀と敷す
まじりぬる人敷すなりと
ひきまのりの大塚へ



善應

本寺と別堂に安置一阿弥陀如来と云る云々 今の宮に改りて

指し伊賀守の位牌ありて善應院月窓明田 居士慶長元年丙申二月十五日卒と云る 塔頭 院 鎮守 秋葉社

八劍社 田神官田吉氏の神初友と云りて今に於り連勝と奉仕せり境外未だ精魂の

多非お福御耶姫命と則御神にまゝと云ふ友八劍大神と夫婦の清神と云り 金毘

羅社 初宮田吉氏の宅にあり文化十二年の劫情あるが年々歳々易し三月九月の十日

雷神社 境内にあり高社より高余の守り

布智神社 甲新田ありて延喜神名式小中島郡布智神社本國帳小従

一位布智天神 一本に淵天神又 軒遇突智命と云る慶長

年中に鎮火祭の御禱を官命と云りて云ひておと云る云々

例祭 近年おた火祭除の守と云ひけりて所持せり 未社 稲荷 神主 田島

野田正琳寺 同村ありて本寺致し未由陣一家中と大お玉宇知郡ありて祝願

中興一城州 栴尾の移一行寺と云其後住持赤沈の頃寛元三年祝願を人の功徳

文安三年懷州石津郡太田村のりて川口文の法禪と云りて大光院正琳寺と改む其後世四

王塚 山崎村にあり塚の上に地蔵の石像あり形古推りて併傳も云後道祖神と云り

徳永法印城壘 昌と云い今田圃と云る徳永石見守昌時より式部卿法印壽

八劍宮社 玉野村ありて本國帳集説小式内の布智神社と於社にありて云ふ高余の

伊福部御厨 祐久村ありて神風抄に二宮尾張國伊福部御厨各八丈給三足五丁と云

鹽江神社 中津村ありて今 延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

白鷺明神 中津村ありて今 延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

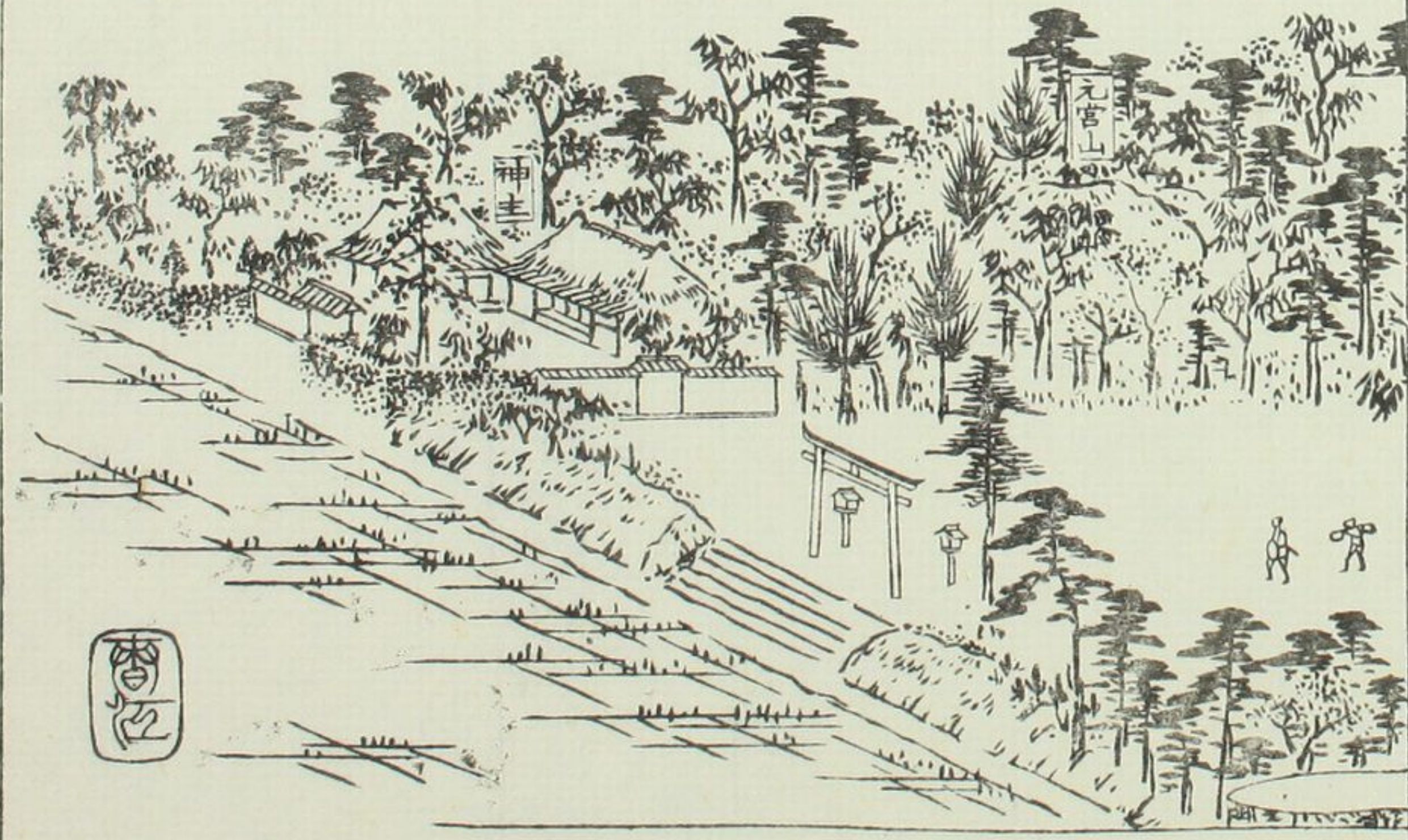
延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

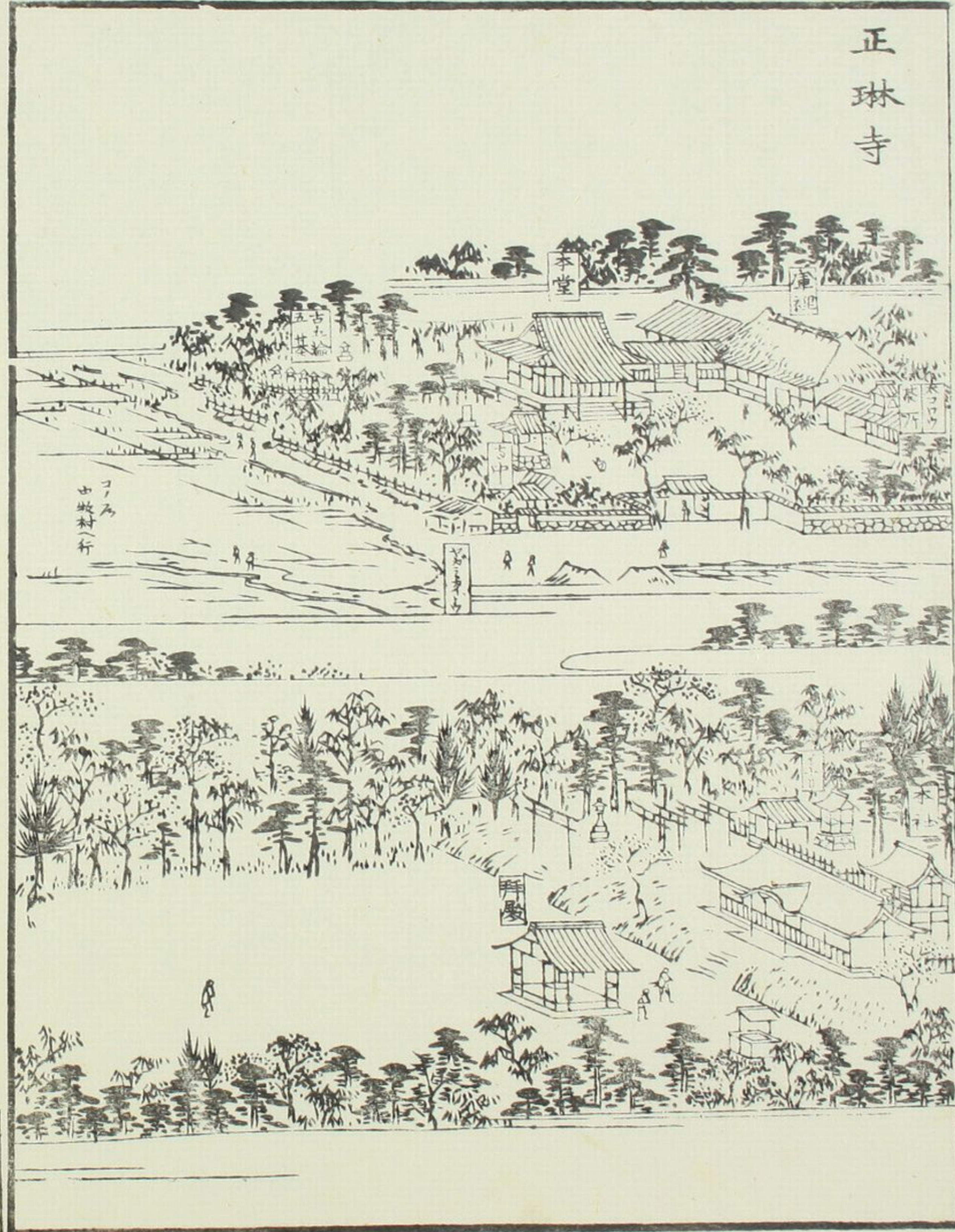
延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

布智神社

もろち業此
あさつと
ちまや
神を舟の中
あつにるる
氷室長翁



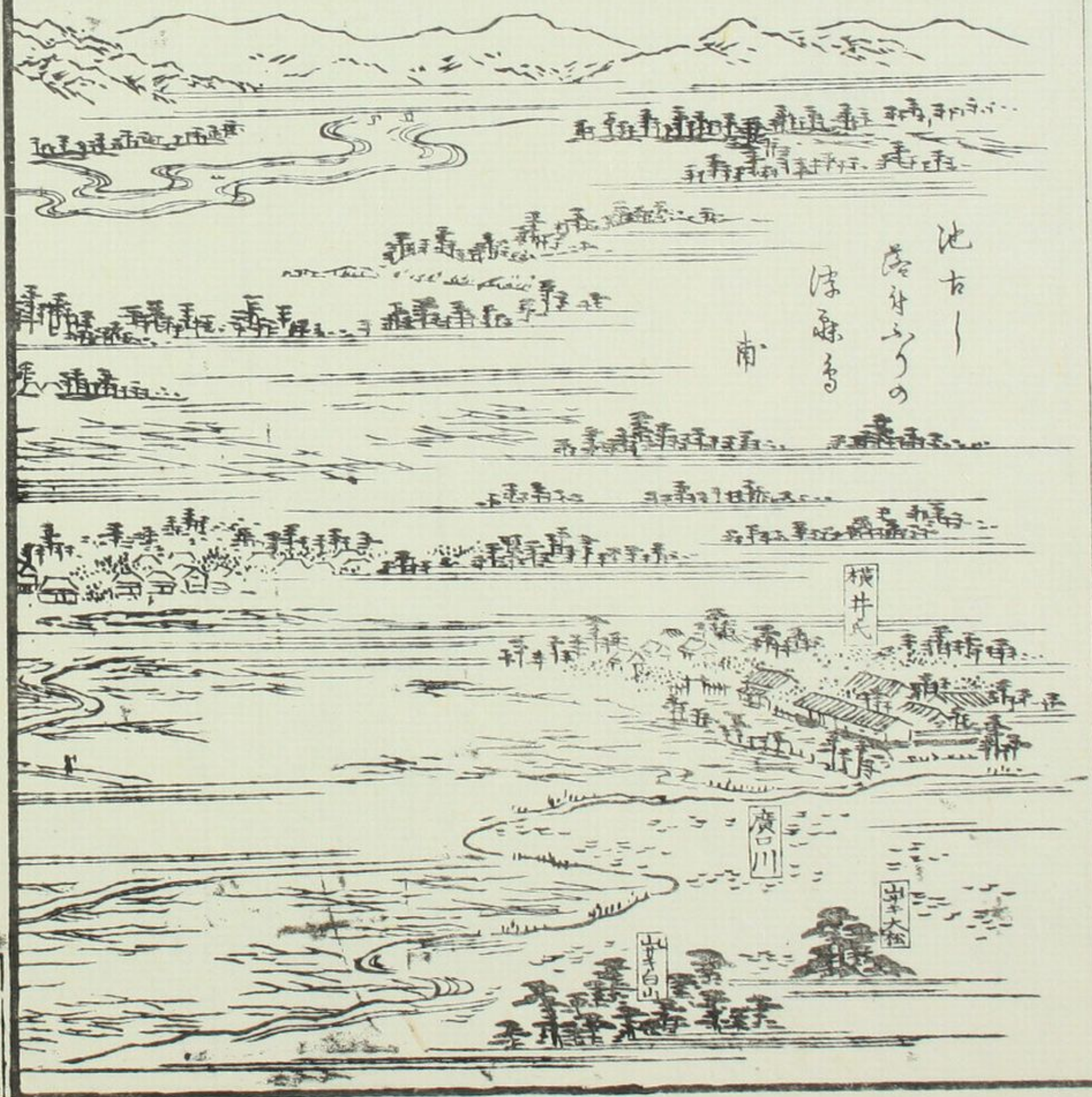
正琳寺



祖父江堤
永張寺
廣口川
神明社

持尊を
言にありたり
廣口川
河のくは鴨
うろゆ
まは

南景

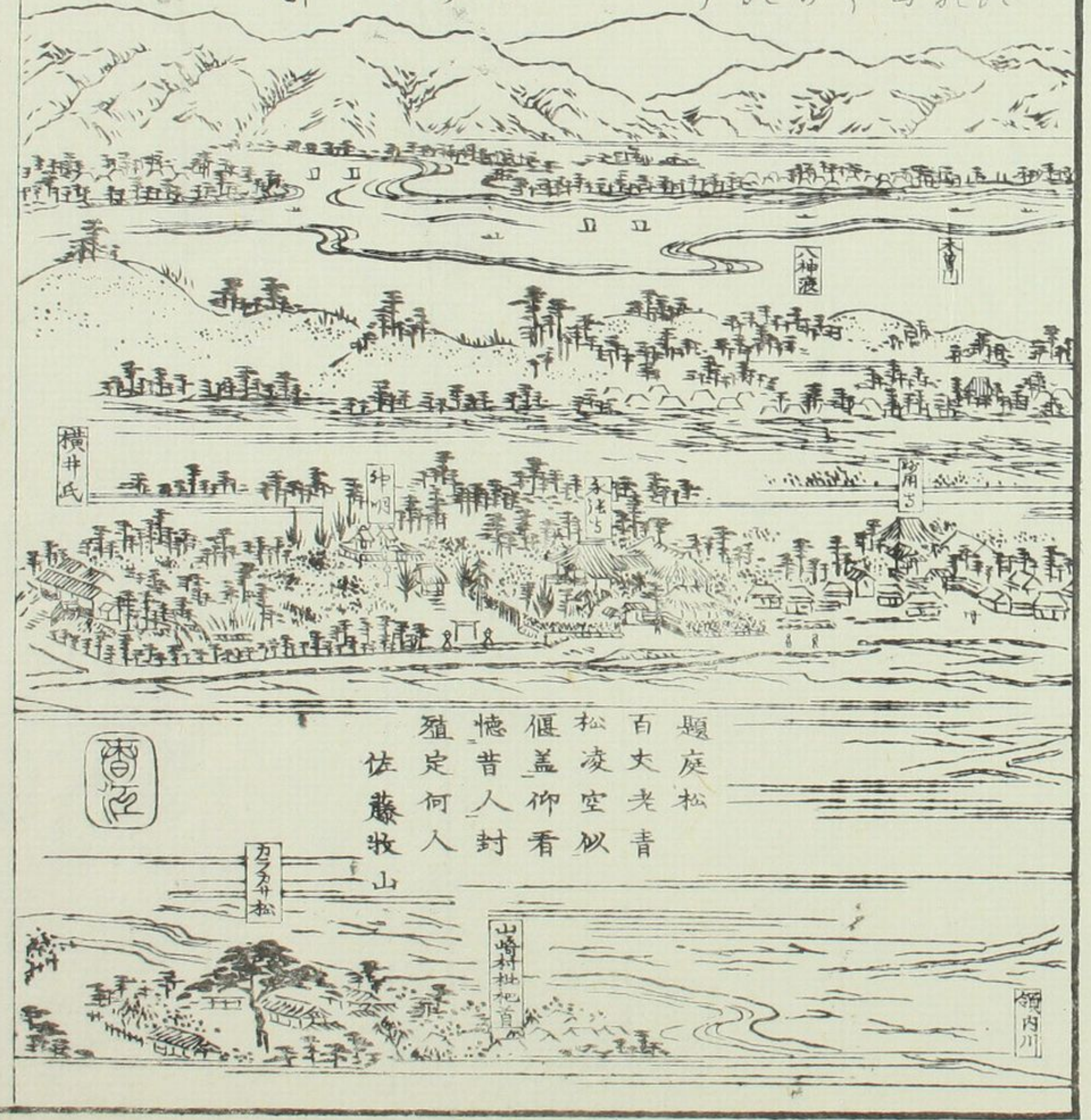


池古
ほろの
南

横井氏
廣口川
山崎村

志みわたりとてこれ
山のくは鴨あり
おろゆとてその山
ソのくは鴨あり
とてこれのくは鴨の
ソのくは鴨あり
川のくは鴨あり
少ありたりたり
よけりたりたり
かたりたりたり
まもりたりたり
ちんちんたりたり
とてこれのくは鴨
海と堤のくは鴨
とてこれのくは鴨

圖網



題庭松
百丈老青
松凌空似
偃盖仰看
憶昔人封
殖定何人
佐藤牧山

酒

万々年松

山崎村

領内川

從三位鹽江天神とありし月七日の多事と陸にふると称する

と 陸の砂は海あり 本國帳集説に塩川村の八幡といふ宮社と云れど陸に陸川

八幡あり 陸川といふ地名あり大塚村性海寺所藏の建武の頃の

證状小中島郡塩江とありけ中野村の古名とあり

中野渡 中野村より本野川と號して美濃の八神と云ふ所傳の八神ハ毛

名産櫻鮫 此也及び起川の名産之形も多しと云ふより大さくして是の鮫

一弓山永張寺 下祖又ハ村小あり曹洞宗 永祿元年三ツ洲村正眼寺十世

周泰和尚あちと閑基 一説ハ文 鳳洲寺と名づけしと寛永八未

年八月 一説九年 七月と云 横井作左衛門時久法名一弓永張居士再建して

今の山号寺号と云 ○本尊 馬頭觀音 春日作

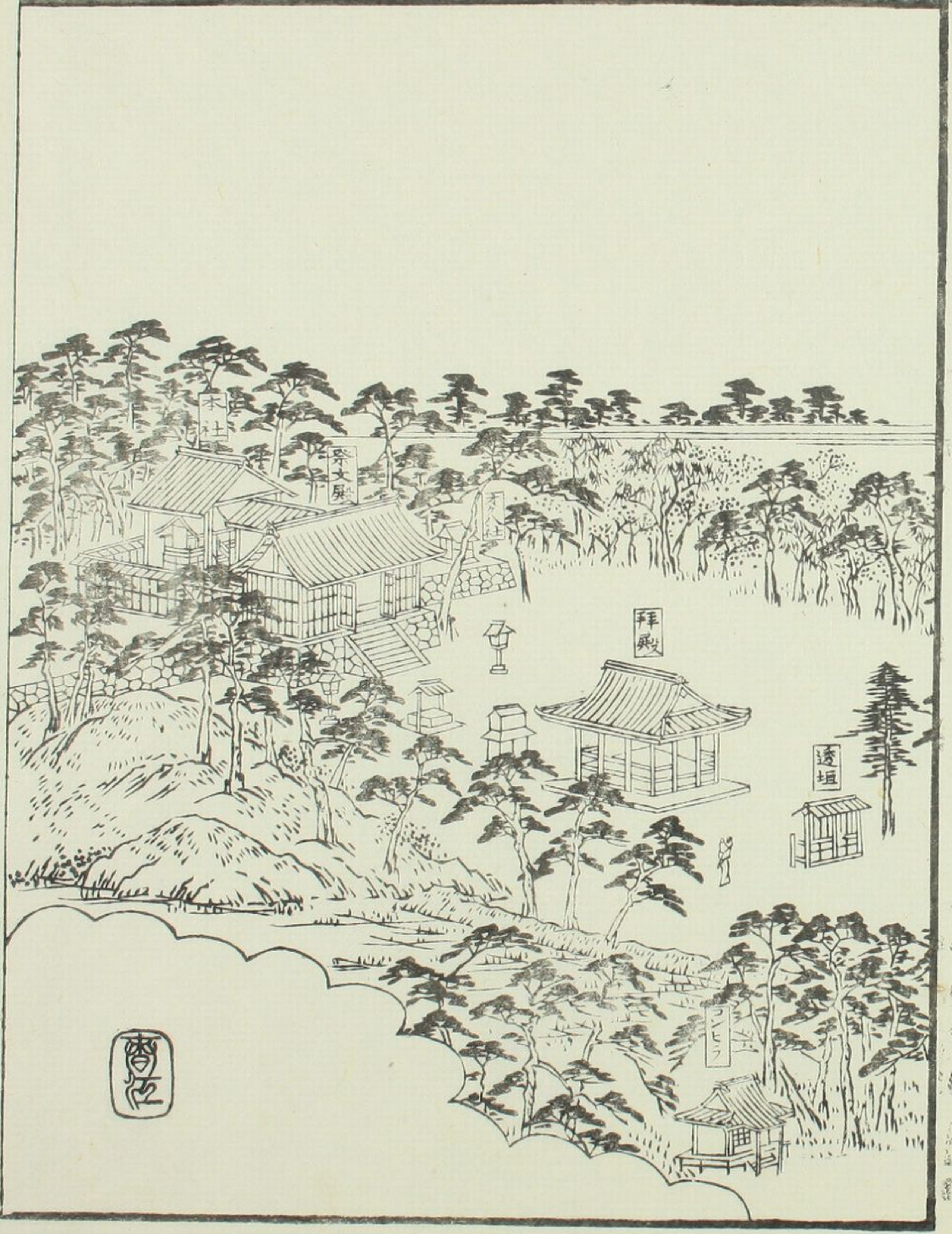
神明社 同村小あり文正年中祖又ハ領主祖又ハ五郎左衛門尉久豊と云ふ

祖父江の古城址 同村小ありと云ふ祖又ハ五郎左衛門尉久豊の頃同郡

祖父江竿鷹 横井十郎左衛門先祖作左衛門時久鍛錬して仕出

長岡莊 上牧村中牧村二候村等の教村と云康正二年造内裏段錢并国棧引付に権樂備

宇多源氏の裔孫といひ長岡莊の住すといふも今其地定りあり



香炉

皇大明神社

中牧の宮にありて
ついで

のほろの宮
神々の治名は

ついで

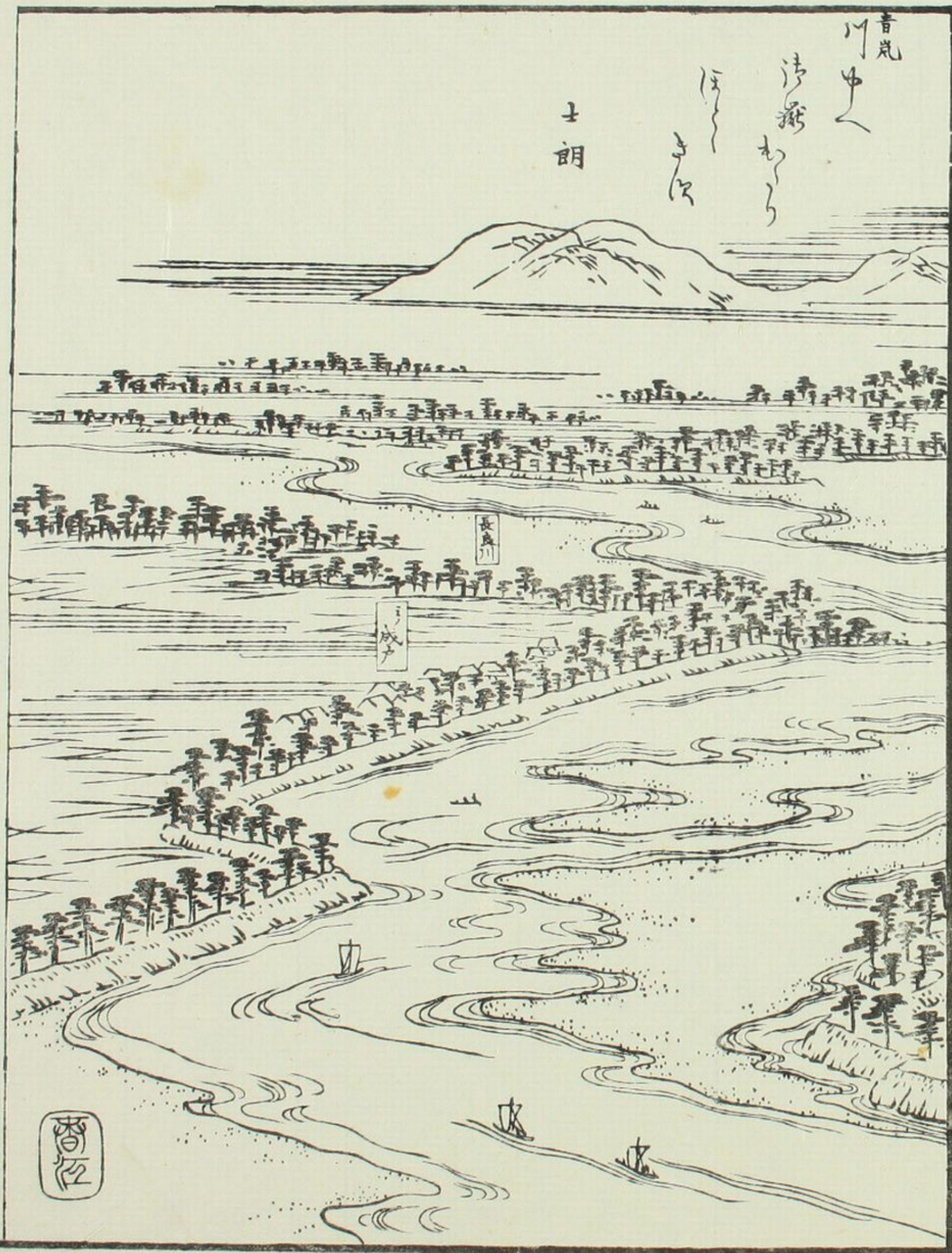
ついで

あはれ

貞足



三ノ四十



韮川 中牧村のあり本町川の支流あり水音ろろなり今大河川の分岐も尾張國に登々川と云河川の昔清公記云大已貴少彦名命と巡國

添盛囊抄の尾張國に登々川と云河川の昔清公記云大已貴少彦名命と巡國の附性遷の足跡あり

皇大明神社 田村にあり牧ヶ藪七ヶ村の虎と休とてり其の由あり天文三年の所記に社

日本武尊系盡鳥尊春日大明神といふ社傳に日本武尊系征の時伊吹山に山神の毒小にりし後心孔にりてり岩州能褒野にりてり其の由あり天文三年の所記に社と云

柳御園 柳御園といふむら村の御園といふ柳と奉りてり其の由あり神鳳抄に尾張國

神明社 此地本町川の岸に尾張美濃の境小なり美濃飛騨

濃等より伊勢泰官の者むら川舟のり下り必は地小なりしてあり

社と拝しありて伊勢詔小なり通例なりむらに村名と神明津といふ

春光山浄安寺地泉院 田村のりり真言宗名古屋大長真福寺末むら長岡山長樂寺

長樂寺は往古の園墓とて延永年中真福寺の二品任瑜は親王馬草といふ其後差祭りしむら者終らかりてこれ必きの前よりありて此地をさりと北向にりてり本町川の境と往來あり里氏系との障とを越て今ありて地方にむらりてり此地をさりと北向にりてり

尾張名所圖會後編卷之二畢

明治四十三年七月十日再版印刷
明治四十三年七月十五日再版發行



編纂者 春江 小田切忠近

編纂者 文園 岡田 啓

編纂者 梅居 野口道直

發行兼印刷者 名古屋市西區玉屋町三丁目一番地 片野東四郎

發行所

永東書籍店

發行所

尙友堂書店

名古屋市西區玉屋町三丁目
名古屋市南區熱田市場町
振替口座東京二〇二七番
振替口座大阪一〇四九二番

